

生活支援等に関する実態調査 報告書

平成26年9月
北九州市保健福祉局

<目 次>

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計と回収結果	1
3. 調査結果の見方	1
4. 調査結果集約の前提	2
(1) 調査結果の位置付け	2
(2) 調査結果の集約（評価・分析）	2
【評価項目一覧】	2
【評価に用いた設問と評価基準】	3
① 日常生活動作（ADL）	3
② 手段的日常生活動作（IADL）	4
③ 物忘れ	4
④ 認知機能障害程度（CPS）	4
⑤ 閉じこもり	5
第2章 調査結果の要約	6
1. 対象者の基本属性	6
2. 生活状況について	7
3. 介護保険サービス等について	9
4. 介護保険制度について	12
5. 介護予防事業について	12
6. 近所や地域との交流について	13
第3章 調査結果の詳細	15
1. 調査の回答者	15
(1) 現在の居場所	15
(2) 調査の回答者	15
2. 基本属性	16
(1) 男女別・年齢・居住区	16
(2) 世帯状況	17
(3) 要介護度	18
(4) 要介護認定の申請を行った理由	19
(5) 介護や支援が必要となった主な原因	20
3. 生活状況について	22
(1) 日常生活動作（ADL）の状況	22
(2) 手段的日常生活動作（IADL）の状況	24
(3) 代わりに日用品の買物や食事の用意をする人	26
(4) 掃除・洗濯・ゴミ出しについて	27
(5) 物忘れの状況	28
(6) 判断や意思伝達の状況	30
(7) 外出の頻度	33
(8) 趣味活動	35
(9) 定期的な訪問者の有無	37
(10) 不自由を感じている日常生活上の行為	39
4. 介護保険サービス等について	41

(1) 介護保険サービスの利用有無と種類.....	41
(2) 介護保険サービスを利用していない理由.....	44
(3) 介護保険以外のサービス利用状況と利用意向.....	46
(4) 介護保険以外のサービス種類について利用状況と利用意向.....	47
5. 介護保険制度について.....	50
(1) 介護保険制度見直しの認知度.....	50
(2) サービス利用料の1割負担に対する考え.....	51
6. 介護予防事業について.....	52
(1) 介護予防事業の利用意向.....	52
(2) 地域包括支援センターの認知度.....	55
(3) 市民センターの行事や活動への参加状況.....	56
7. 近所や地域との交流について.....	58
(1) 近所や地域との交流の程度.....	58
(2) 地域のつながりについて.....	60
第4章 参考資料	エラー! ブックマークが定義されていません。
1. 北九州市の日常生活圏域.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
2. クロス集計表.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
3. 調査票.....	エラー! ブックマークが定義されていません。

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

要支援認定者に係る生活支援サービスの利用状況やニーズなどについて把握を行い、サービス量の見込みやサービス基盤の整備等の制度設計の基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 調査設計と回収結果

調査対象	市内在住の要支援認定を受けている者 (平成26年3月31日時点。ただし、高齢者等実態調査の対象者は除く)
調査方法	郵送配布—郵送回収
標本数	14,856人
回収数(率)	9,637人(64.9%)
有効回収数(率)	9,431人(63.5%)
調査期間	平成26年7月22日～8月18日(回収予備期間含む)

※有効回収数は、回収数から調査不能票(入院中等)の206サンプルを除いた数

3. 調査結果の見方

- 回答は、原則として各設問の調査数を基数(N)とした百分率(%)で表し、小数第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- クロス集計の表側に使用している「男女別」「年齢別」「世帯状況別」「居住区別」等の基本属性では、副問(サブクエスチョン)等の回答者が限定される質問もあるため、図表中の表側項目の調査数を合計しても、必ずしも調査の有効回収数にならない場合がある。
- クロス集計等において、基数(N)となる調査数が少数となる場合は参考までに数値を見る程度に留め、結果の利用には注意を要する。
- 本文または図表中の質問文及び回答選択肢については、都合上、省略して表記している場合があるため、詳細は「第4章 参考資料」中の調査票(140～151頁)を参照のこと。

4. 調査結果集約の前提

(1) 調査結果の位置付け

本調査結果報告書の作成目的については、『第1章 調査の概要』の「1. 調査の目的」の項において記載のとおりである。

「4. 調査結果集約の前提」においては、調査結果をみる上で留意すべき点、本調査結果の位置付け等についてまず述べ、『第2章 調査結果の要約』においては、調査結果のうち主な設問の回答結果の要約を、また『第3章 調査結果の詳細』においては、設問の回答に基づく個別の分析を掲載している。

「男女別」「年齢」「居住区」「要介護度」の基本属性については、北九州市が保有する個人情報データと突合し分析を行っている。

その他の設問に関しては、回答者の記入に基づく結果を基に分析を行っている。

(2) 調査結果の集約（評価・分析）

各調査項目ごとに、単純集計を基本としている。

調査項目の一部については、国の基準に基づき、以下の「日常生活動作（ADL）」「手段的日常生活動作（IADL）」「物忘れ」「認知機能障害程度（CPS）」「閉じこもり」の項目について評価・分析を行っている。

【評価項目一覧】

評価項目	項目の内容
①日常生活動作（ADL）	問8「食事は自分で食べられるか」など10の設問より、日常生活を送るために必要な様々な基本動作や活動の能力について確認する項目 ※「自立」「起居移動に介助が必要」「ほぼ全てに介助が必要」の3つに分かれる
②手段的日常生活動作（IADL）	問8「バスや電車で一人で外出しているか」など5つの設問より、活動的な日常生活を送るための動作について確認する項目 ※「低い」「やや低い」「高い」に分けられ、「高い」は能力が高いことを意味する
③物忘れ	問8「周りの人から物忘れがあると言われるか」など3つの設問より、物忘れの傾向を調べる項目 ※「該当者」は、物忘れのリスクがあることを意味する
④認知機能障害程度（CPS）	問8「5分前のことが思い出せる」など4つの設問より、認知機能の障害程度を確認する項目 ※障害がない「0レベル」から「6レベル」に分けられ、レベルが高いほど認知機能の障害程度が重いことを意味する
⑤閉じこもり	問9「週1回以上の外出の有無」を問うことで、閉じこもりの傾向を調べる項目 ※「該当者」は、閉じこもりのリスクがあることを意味する

【評価に用いた設問と評価基準】

①日常生活動作（ADL）

設 問		配 点		評価基準
問8- (9)	食事は自分で食べられるか	できる	10点	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立」 65～100点 ・「起居移動に介助が必要」 45～60点 ・「ほぼすべてに介助が必要」 40点以下
		一部介助	5点	
		できない	0点	
問8- (10)	寝床に入るとき、何らかの介助を受けるか	受けない	15点	
		一部介助	10点	
		全面的な介助 (11)「できる」 「支えが必要」	5点	
		全面的な介助 (11)「できない」	0点	
問8- (12)	自分で洗面や歯磨きができるか	できる	5点	
		一部介助、できない	0点	
問8- (13)	自分でトイレができるか	できる	10点	
		一部介助	5点	
		できない	0点	
問8- (14)	自分で入浴ができるか	できる	5点	
		一部介助、できない	0点	
問8- (15)	50m以上歩けるか	できる	15点	
		一部介助	10点	
		できない	0点	
問8- (16)	階段を昇り降りできるか	できる	10点	
		介助があればできる	5点	
		できない	0点	
問8- (17)	自分で着替えができるか	できる	10点	
		介助があればできる	5点	
		できない	0点	
問8- (18)	大便の失敗があるか	ない	10点	
		ときどきある	5点	
		よくある	0点	
問8- (19)	尿もれや尿失禁があるか	ない	10点	
		ときどきある	5点	
		よくある	0点	

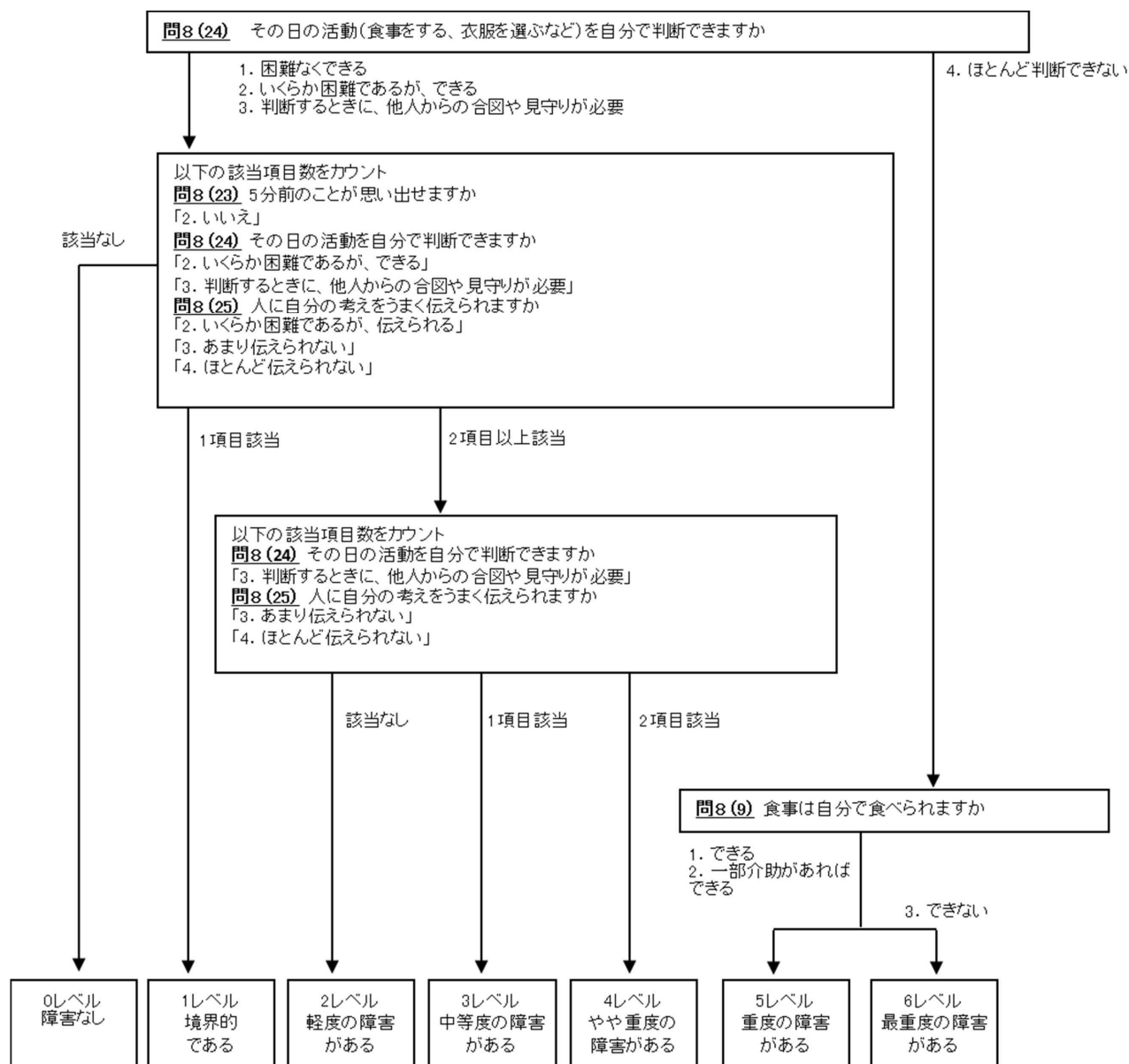
②手段的日常生活動作（IADL）

設 問		配 点	評価基準
問8-(1)	バスや電車で一人で外出しているか	できるし、している (1点)	「低い」3点以下 「やや低い」4点 「高い」5点
問8-(2)-1	日用品の買物をしているか	できるし、している (1点)	
問8-(3)-1	自分で食事の用意をしているか	できるし、している (1点)	
問8-(7)	請求書の支払いをしているか	できるし、している (1点)	
問8-(8)	預貯金の出し入れをしているか	できるし、している (1点)	

③物忘れ

設 問		配 点	評価基準
問8-(20)	周りの人から物忘れがあるとと言われるか	はい (1点)	1点以上が リスク該当者
問8-(21)	自分で電話番号を調べて電話をかけているか	いいえ (1点)	
問8-(22)	今日が何月何日かわからない時があるか	はい (1点)	

④認知機能障害程度（CPS）



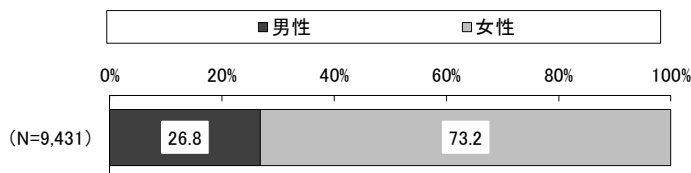
⑤閉じこもり

設 問		配 点	評価基準
問9	日ごろ、どのくらい出かけているか	ほぼ毎日 週に3~5回程度 週に1~2回程度	非該当者
		月に1~2回程度 ほとんど出かけない 全くでかけない	該当者

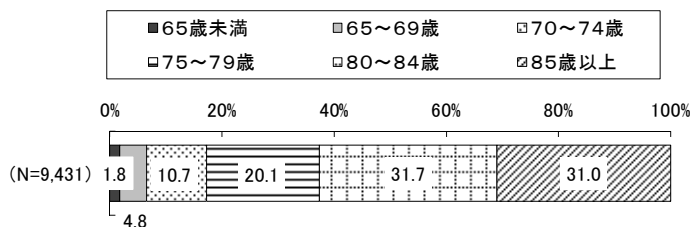
第2章 調査結果の要約

1. 対象者の基本属性

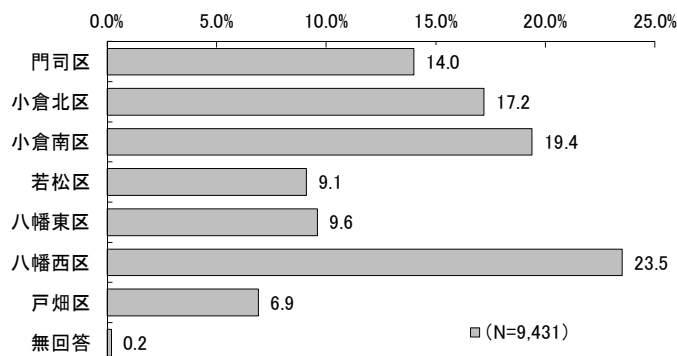
○男女別は、「男性」が26.8%、「女性」が73.2%と、女性が7割強を占めている。【→16頁】



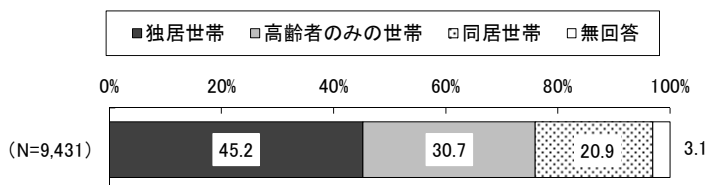
○年齢は、「80～84歳」が31.7%と最も高く、次いで「85歳以上」31.0%、「75～79歳」20.1%の順となっており、75歳以上の後期高齢者が全体の8割強を占めている。
また、平均年齢は80.8歳となっている。【→16頁】



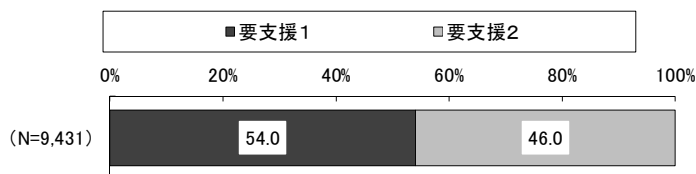
○居住区は、「八幡西区」が23.5%と最も高く、次いで「小倉南区」19.4%、「小倉北区」17.2%の順となっている。【→16頁】



○世帯状況は、「独居世帯」が45.2%と最も高く、次いで「高齢者のみの世帯」30.7%、「同居世帯」20.9%の順となっている。【→17頁】



○要介護度は、「要支援1」が54.0%、「要支援2」が46.0%となっている。年齢別では、65歳未満を除いてほぼ差はみられない。【→18頁】

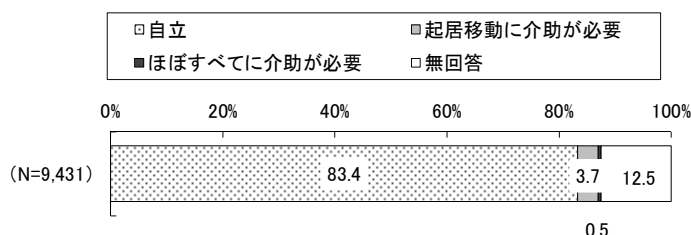


2. 生活状況について

日常生活動作（ADL）の状況

○食事やトイレ、入浴等の日常生活動作（ADL）について、設問10項目を用いて評価を行ったところ、「自立」が83.4%、「起居移動に介助が必要」が3.7%、「ほぼすべてにおいて介助が必要」が0.5%となっている。【→23頁】

※日常生活動作（ADL）の状況は、「自立」「起居移動に介助が必要」「ほぼ全てに介助が必要」の3つに分かれる。

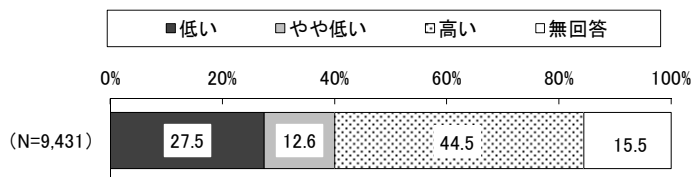


手段的日常生活動作（IADL）の状況

○買い物や金銭管理等の高次の生活機能の水準を表す手段的日常生活動作（IADL）について、できないと回答した人の割合が高かった項目は、「バスや電車で一人で外出しているか」が34.4%と最も高く、次いで「日用品の買物をしているか」27.9%、「自分で食事の用意をしているか」22.7%となっており、外出が必要な項目において困難を示す割合が高くなる傾向にある。【→24頁】

○さらに、設問5項目を用いて手段的日常生活動作（IADL）の評価を行ったところ、手段的日常生活動作（IADL）が『低下』（＝「低い（3点以下）」＋「やや低い（4点）」）している人の割合は約4割を占めている。【→25頁】

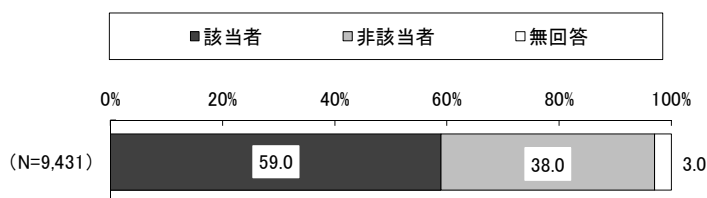
※手段的日常生活動作（IADL）の状況は、「低い」「やや低い」「高い」に分けられ、「高い」は能力が高いことを意味する。



物忘れ

○物忘れや記憶力の低下のリスクについて、設問3項目を用いて評価を行ったところ、リスクがあることを示す「該当者」の割合は約6割を占めている。また、「該当者」の割合は加齢とともに高まる傾向にある。【→29頁】

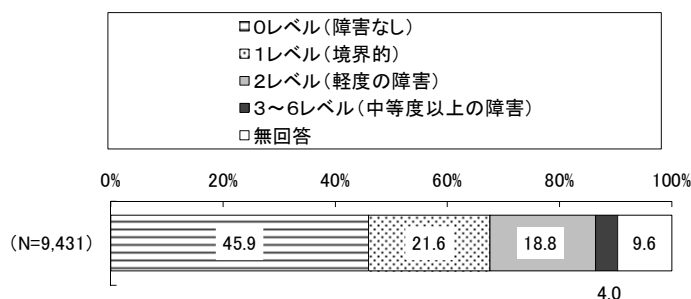
※「該当者」は、物忘れのリスクがあることを意味する。



認知機能障害程度（CPS）

○認知症に関わるリスク状況について、基本チェックリストとは別に、認知機能の障害程度指標として有用とされている指標（CPS）に基づき評価したところ、「0レベル（障害なし）」が45.9%、「1レベル（境界的）」が21.6%、「2レベル（軽度の障害）」が18.8%となっており、認知症のリスクが高い「3～6レベル（中等度以上の障害）」については4.0%となっている。【→31頁】

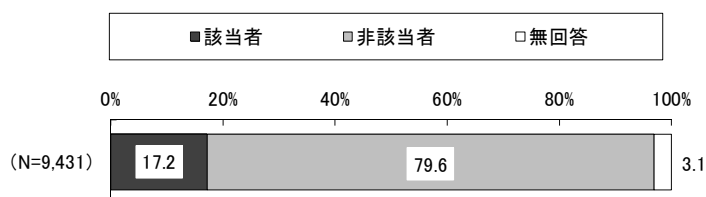
※認知機能障害程度（CPS）の評価は、障害がない「0レベル」から障害が重い「6レベル」の7段階に分けられ、レベルが高いほど認知機能の障害程度が重いことを意味する。



閉じこもり

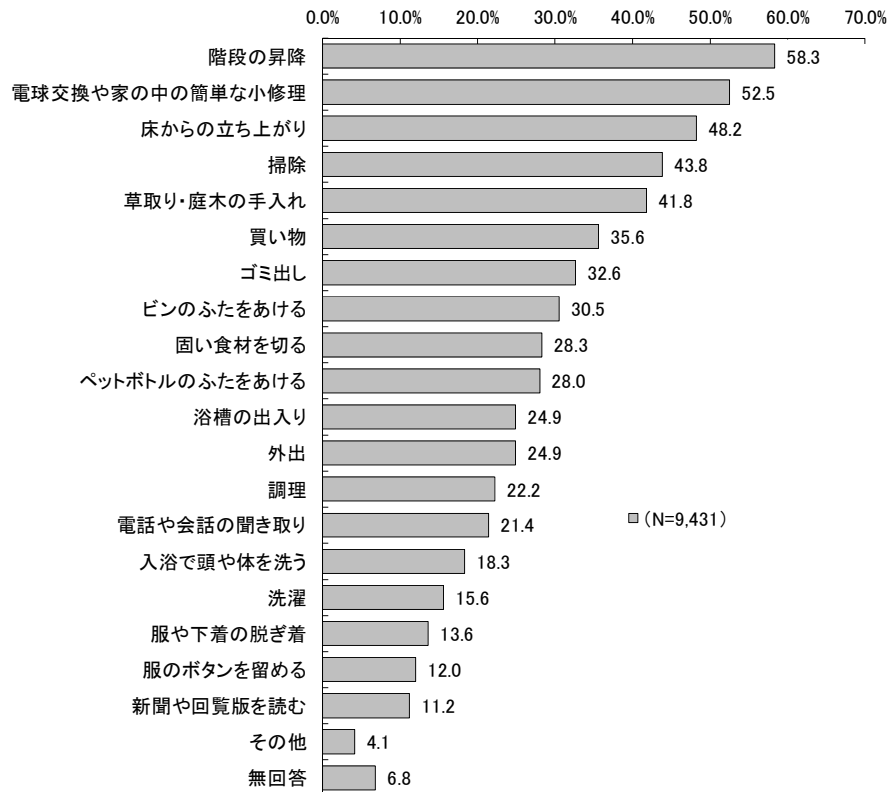
○基本チェックリストに基づく閉じこもりのリスクについて、設問1項目を用いて評価を行ったところ、「非該当者」が約8割を占め、「該当者」は約2割となっている。【→34頁】

※「該当者」は、閉じこもりのリスクがあることを意味する。



日常生活上の不自由

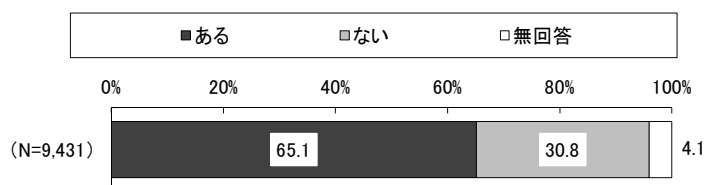
○日ごろ、不自由を感じている日常生活上の行為については、「階段の昇降」が 58.3%と最も高く、次いで「電球交換や家の中の簡単な小修理」52.5%、「床からの立ち上がり」48.2%の順となっている。【→39 頁】



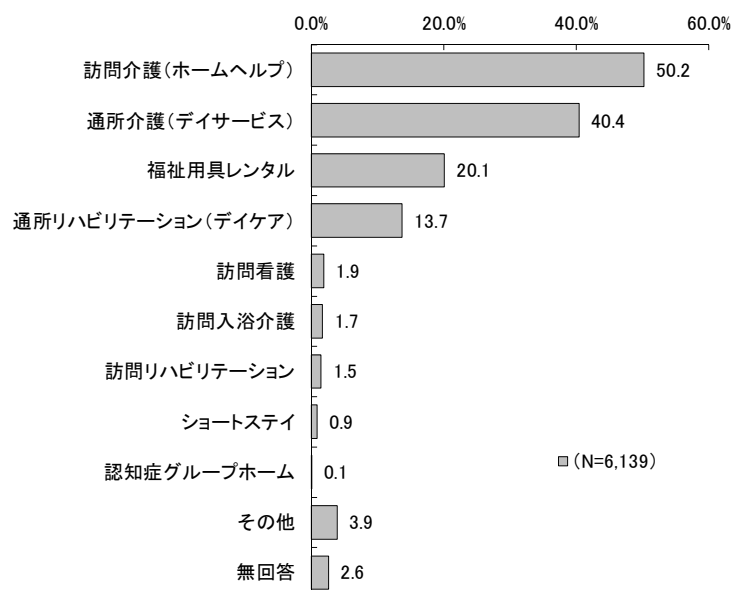
3. 介護保険サービス等について

介護保険サービスについて

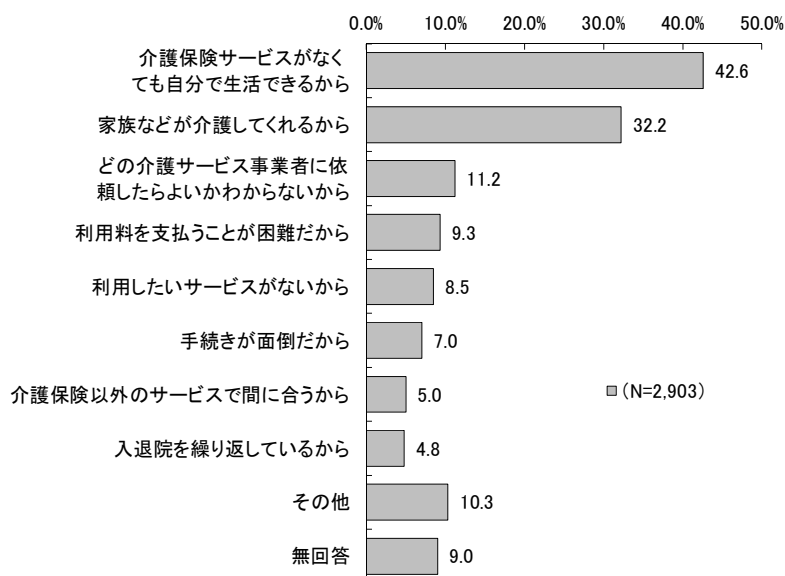
○現在、利用している介護保険サービスについて、「ある」が 65.1%、「ない」が 30.8%となっており、介護保険サービスの利用が「ある」の割合は男性 (59.3%) より女性 (67.2%) で高く、世帯状況別にみると独居世帯 (73.9%) で高くなっている。【→41、42 頁】



○現在、利用している介護保険サービスがあると回答した人に具体的なサービスについて聞いたところ、「訪問介護（ホームヘルプ）」が50.2%と最も高く、次いで「通所介護（デイサービス）」40.4%、「福祉用具レンタル」20.1%の順となっている。【→41、42 頁】

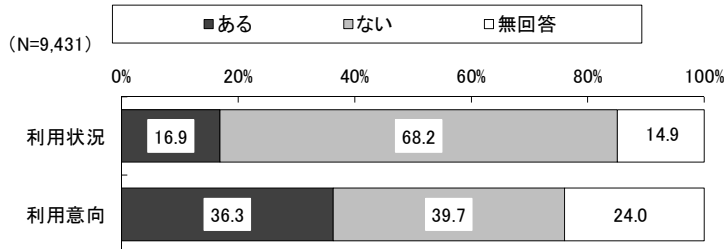


○現在、介護保険サービスを利用していない人にその理由を聞いたところ、「介護保険サービスがなくても自分で生活できるから」が42.6%、「家族などが介護してくれるから」が32.2%となっており、この2項目が主な理由となっている。【→44 頁】



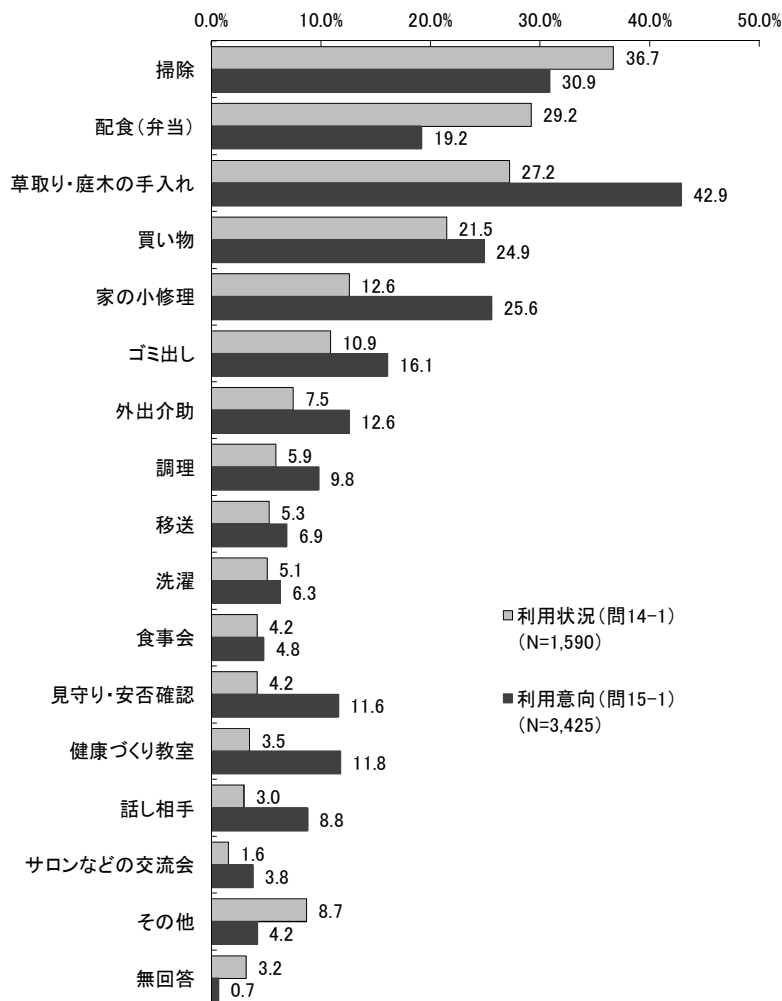
介護保険以外のサービスについて

○現在、利用している介護保険以外のサービスと今後の利用意向について聞いたところ、現在の利用が「ある」と回答した人は2割に満たないが、今後の利用意向については「ある」と回答した人が36.3%と現状を大きく上回っている。【→46頁】



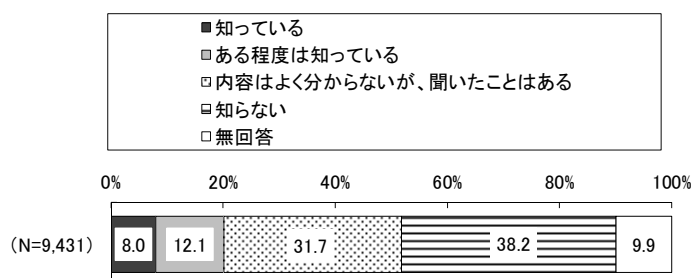
○現在、利用している介護保険以外のサービスについては、「掃除」が36.7%と最も高く、次いで「配食（弁当）」29.2%、「草取り・庭木の手入れ」27.2%の順となっている。【→47、48頁】

○今後、利用してみたい介護保険以外のサービスについては、「草取り・庭木の手入れ」が42.9%と最も高く、現在の利用状況（27.2%）を大きく上回る利用意向がある。次いで「掃除」30.9%、「家の小修理」25.6%の順となっている。【→47、48頁】

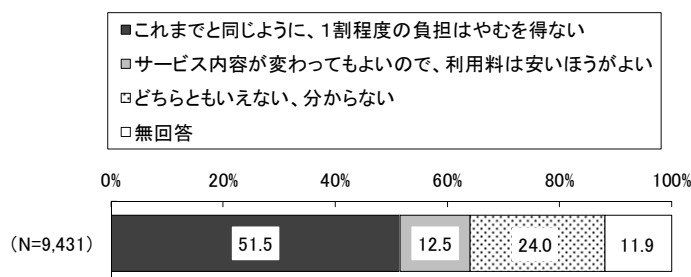


4. 介護保険制度について

○介護保険制度の見直しについて、「知っている」、「ある程度は知っている」、「内容はよく分からないが、聞いたことはある」を合わせると51.8%であり、制度改革が実施されることについては約5割の人が知っているが、「知っている」(8.0%)、「ある程度は知っている」(12.1%)を合わせた認知度は約2割にとどまっている。【→50頁】



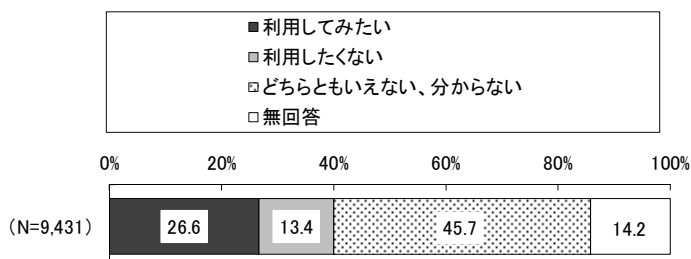
○サービス利用料の1割負担に対する考えについて聞いたところ、「これまでと同じように、1割程度の負担はやむを得ない」を回答した人が51.5%と約半数である。介護保険サービスを利用したことがある人では、約6割を占める。【→51頁】



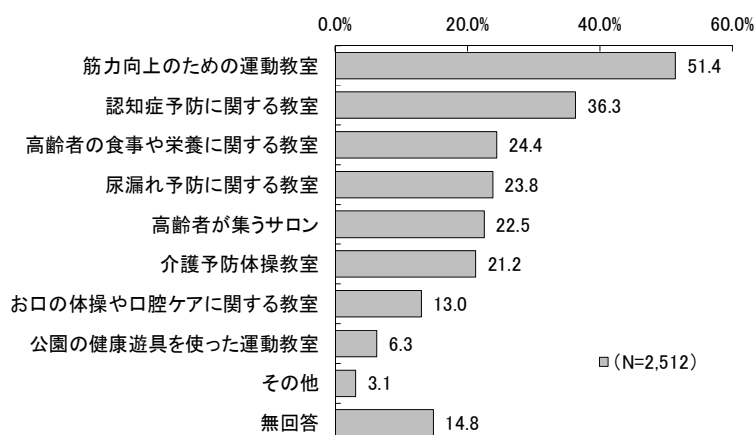
5. 介護予防事業について

介護予防事業について

○介護予防事業を利用したいかについて聞いたところ、「どちらともいえない、分からない」と回答した人が45.7%と最も高く、次いで「利用してみたい」26.6%、「利用したくない」13.4%の順となっている。【→52頁】

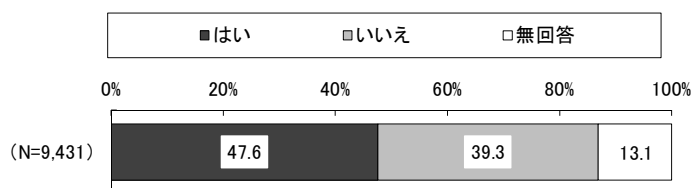


- 「介護予防事業を利用したい」と回答した人に利用したい具体的な介護予防事業の種類について聞いたところ、「筋力向上のための運動教室」が 51.4%と最も高く、次いで「認知症予防に関する教室」36.3%、「高齢者の食事や栄養に関する教室」24.4%の順となっている。
【→52、53 頁】



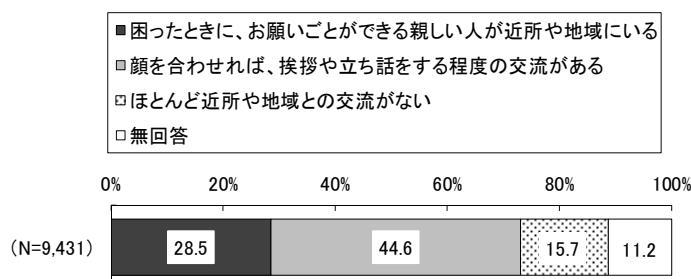
地域包括支援センターの認知度

- 「地域包括支援センター」を知っているかについて聞いたところ、「はい」が 47.6%、「いいえ」が 39.3%となっており、認知度（「はい」の割合）は約半数となっている。また、認知度は加齢とともに低くなる傾向にある。【→55 頁】



6. 近所や地域との交流について

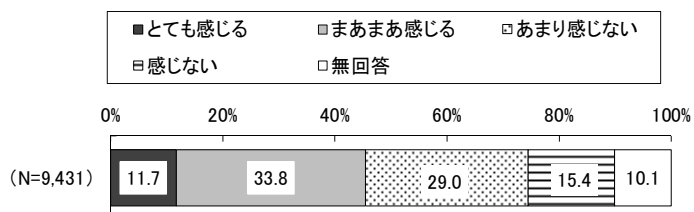
- どの程度、近所や地域と交流しているかについて聞いたところ、「顔を合わせれば、挨拶や立ち話をする程度の交流がある」と回答した人が 44.6%と最も高く、次いで「困ったときに、お願いごとができる親しい人が近所や地域にいる」が 28.5%となっており、7割程度は近所や地域との交流が一定程度あるものと考えられる。一方で、「ほとんど近所や地域との交流がない」と回答した人は 15.7%となっている。【→58 頁】



○地域とのつながりがあると感じるかについて聞いたところ、「まあまあ感じる」と回答した人が 33.8%と最も高く、次いで「あまり感じない」29.0%、「感じない」15.4%の順となっている。

また、「とても感じる」、「まあまあ感じる」と回答した人を合わせた『感じる』の割合は 45.5%、「あまり感じない」、「感じない」と回答した人を合わせた『感じない』の割合は 44.4%とほぼ拮抗している。

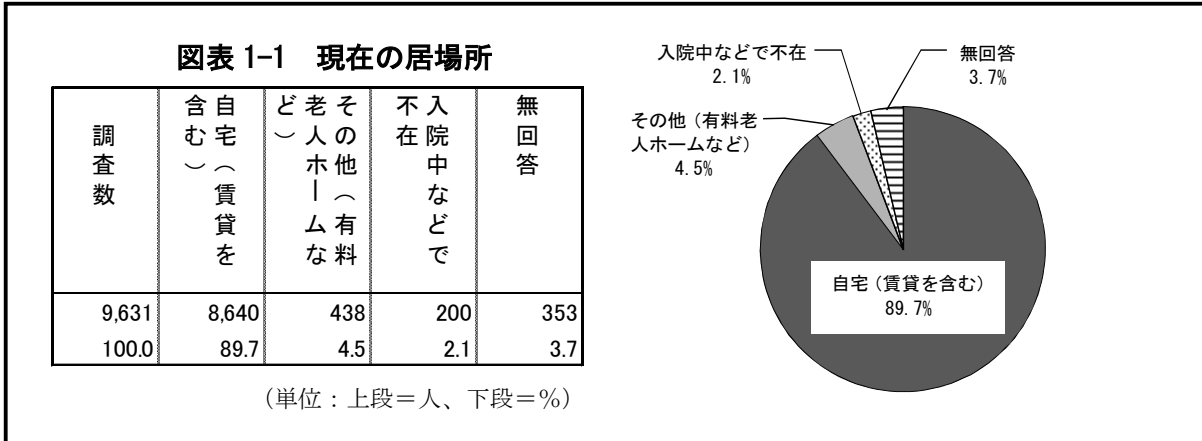
【→60 頁】



第3章 調査結果の詳細

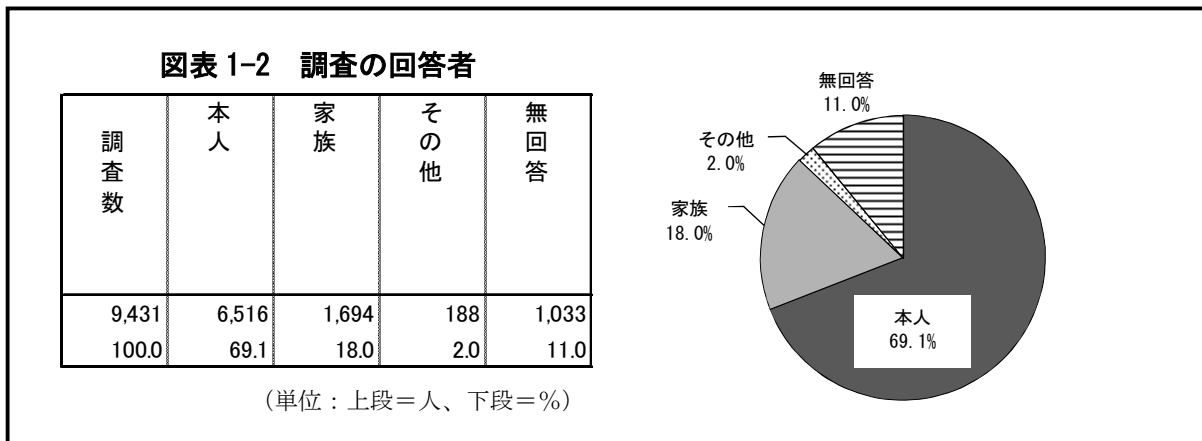
1. 調査の回答者

(1) 現在の居場所



現在の居場所について聞いたところ、「自宅（賃貸を含む）」と回答した人が 89.7% と最も高く、次いで「その他（有料老人ホームなど）」 4.5%、「入院中などで不在」 2.1% の順となっている。

(2) 調査の回答者

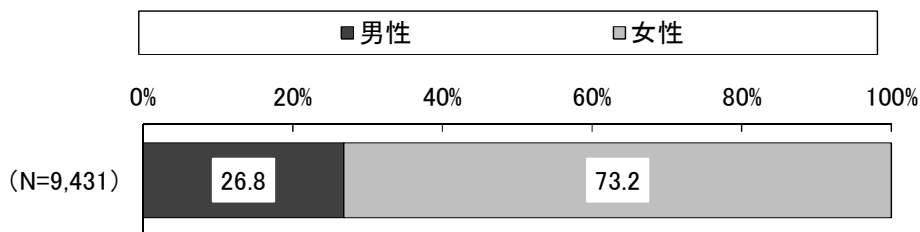


調査の回答者について聞いたところ、「本人」と回答した人が 69.1% と最も高く、次いで「家族」 18.0%、「その他」 2.0% の順となっている。

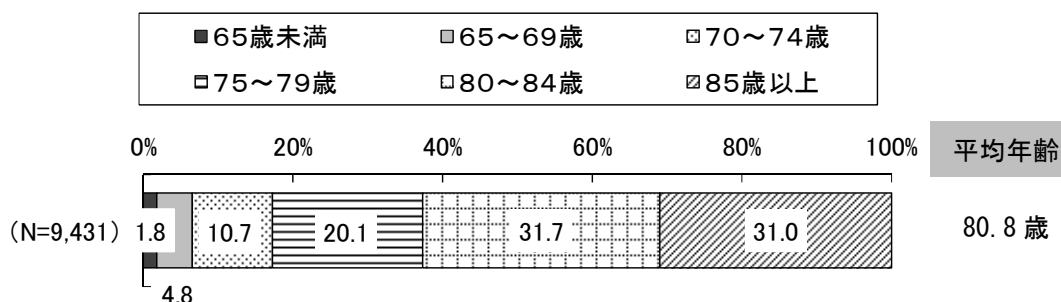
2. 基本属性

(1) 男女別・年齢・居住区

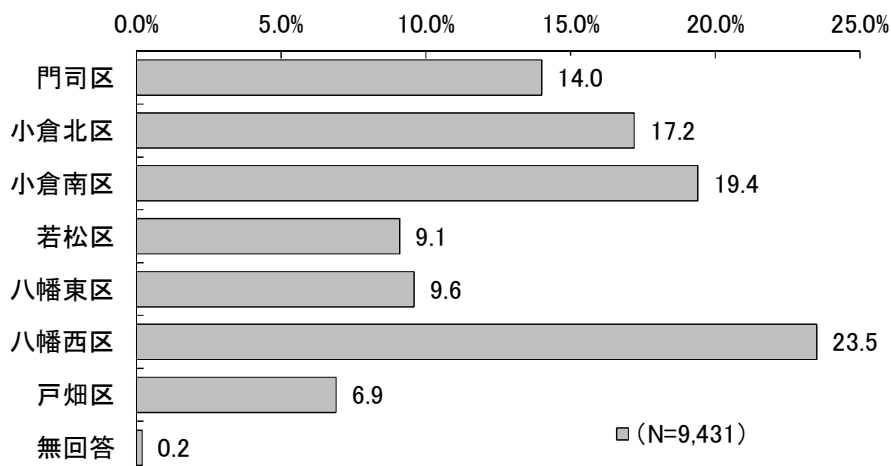
図表 2-1 男女別



図表 2-2 年齢



図表 2-3 居住区



回答者の男女別は、「男性」が 26.8%、「女性」が 73.2%と、女性が約 7 割強を占めている。

年齢別では、「80～84 歳」が 31.7%、「85 歳以上」が 31.0%とそれぞれ約 3 割を占め、「75～79 歳」の 20.1%を合わせた 75 歳以上の後期高齢者が全体の約 8 割強を占めている。また、平均年齢は 80.8 歳となっている。

居住区は、「八幡西区」の 23.5%が最も高く、次いで「小倉南区」19.4%、「小倉北区」17.2%の順となっている。

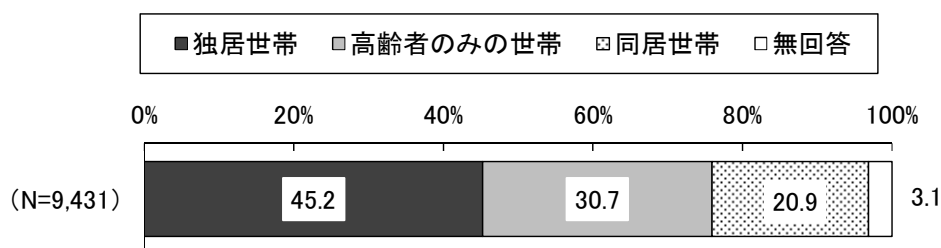
(2) 世帯状況

問3 あなたは現在一人暮らしですか。(○は1つ)

【問3で、「2いいえ」と答えた方のみ】

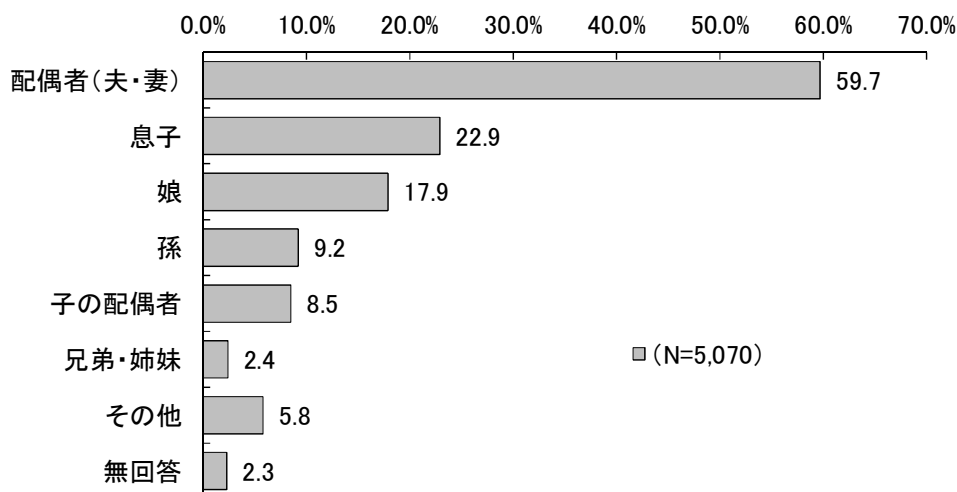
問3-1 あなたの世帯は高齢者(65歳以上)のみの世帯ですか。(○は1つ)

図表2-4 世帯状況



問3-2 同居されている方はどなたですか。(○はいくつでも)

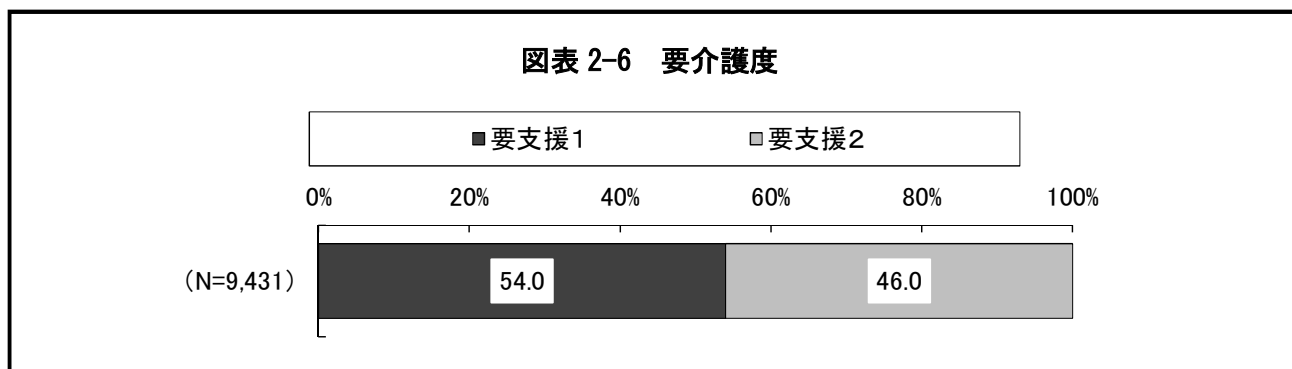
図表2-5 同居者



世帯状況について聞いたところ、「独居世帯」と回答した人が45.2%と最も高く、次いで「高齢者のみの世帯」30.7%、「同居世帯」20.9%の順となっている。

「高齢者のみの世帯」及び「同居世帯」の方に同居者について聞いたところ、「配偶者(夫・妻)」と回答した人が59.7%と最も高く、次いで「息子」22.9%、「娘」17.9%の順となっている。

(3) 要介護度



要介護度について聞いたところ、「要支援1」が54.0%、「要支援2」が46.0%となっている。年齢別では、65歳未満を除いてほぼ差は見られない。

図表 2-7 要介護度（男女別・年齢別）

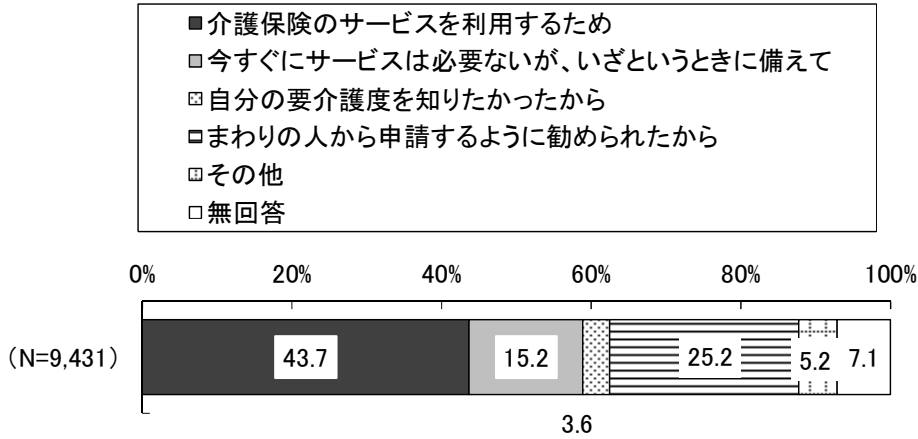
(単位: 人・%)

		調査数 (人)	要支援 1	要支援 2
全体		9,431	54.0	46.0
男女別	男性	2,531	56.4	43.6
	女性	6,900	53.1	46.9
年齢別	65歳未満	171	29.2	70.8
	65～69歳	451	47.7	52.3
	70～74歳	1,006	51.8	48.2
	75～79歳	1,891	55.0	45.0
	80～84歳	2,986	57.9	42.1
	85歳以上	2,926	52.5	47.5

(4) 要介護認定の申請を行った理由

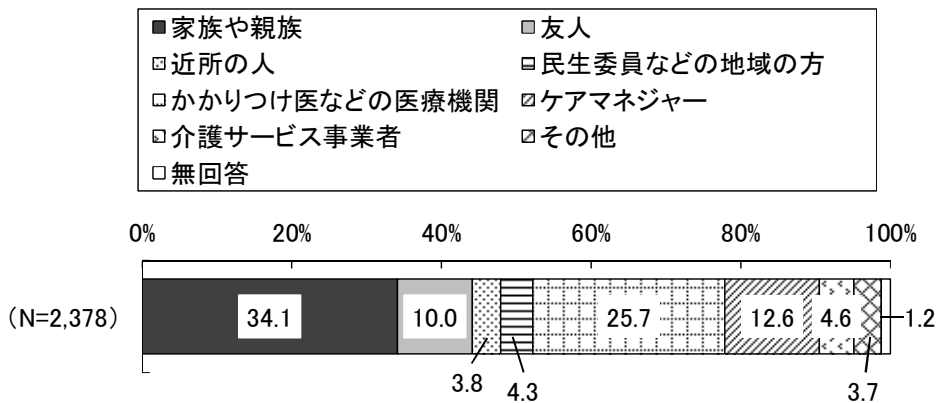
問6 介護保険の要介護認定の申請を行った理由は何ですか。(○は1つ)

図表 2-8 要介護認定の申請を行った理由



【問6で、「4. (家族や知人など) まわりの人から申請するように勧められたから」と答えた方のみ】
問6-1 主にどなたからの勧めですか。(○は1つ)

図表 2-9 要介護認定の申請を勧めた人



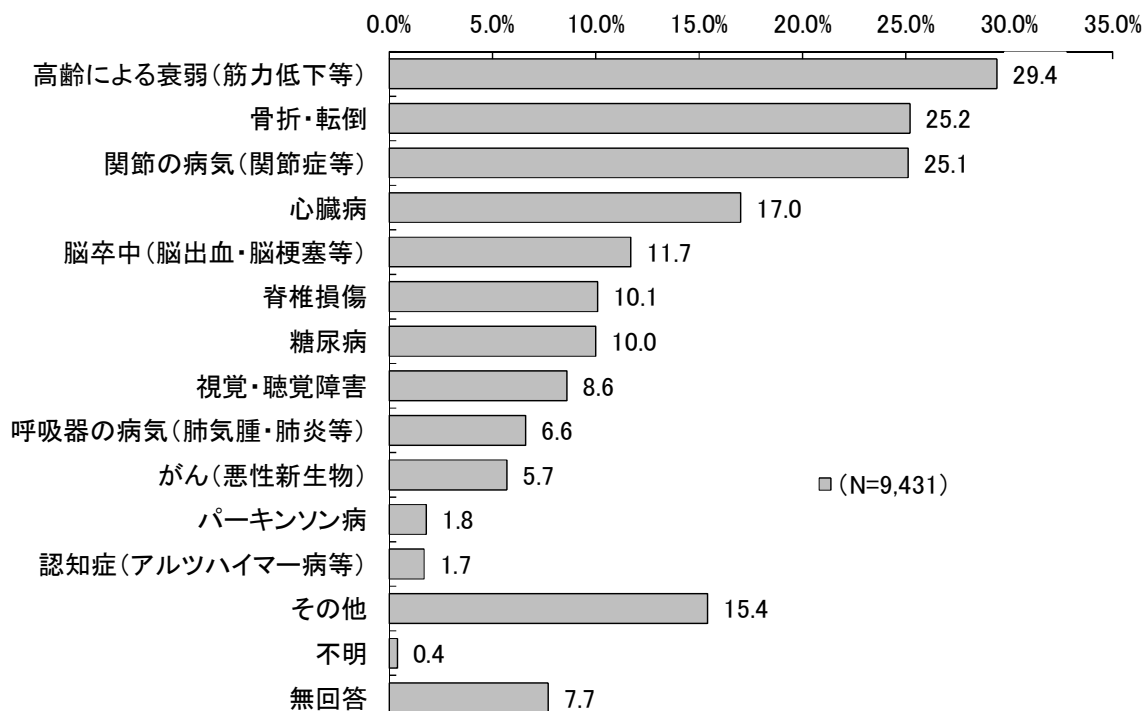
要介護認定の申請を行った理由を聞いたところ、「介護保険のサービスを利用するため」と回答した人が43.7%と最も高く、次いで「まわりの人から申請するように勧められたから」25.2%、「今すぐにサービスは必要ないが、いざというときに備えて」15.2%の順となっている。

「まわりの人から申請するように勧められたから」と回答した人に申請を勧めた人について聞いたところ、「家族や親族」と回答した人が34.1%と最も高く、次いで「かかりつけ医などの医療機関」25.7%、「ケアマネジャー」12.6%の順となっている。

(5) 介護や支援が必要となった主な原因

問7 介護や支援が必要となった主な原因は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 2-10 介護や支援が必要となった主な原因



介護や支援が必要となった主な原因について聞いたところ、「高齢による衰弱（筋力低下等）」と回答した人が29.4%と最も高く、次いで「骨折・転倒」25.2%、「関節の病気（関節症等）」25.1%の順となっている。

男女別にみると、「骨折・転倒」、「関節の病気（関節症等）」等の割合は男性より女性で高く、「心臓病」、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、「脊椎損傷」、「糖尿病」等の割合は女性より男性で高くなっている。

年齢別に介護や支援が必要となった主な原因をみると、上位に挙げられている「高齢による衰弱（筋力低下等）」、「骨折・転倒」、「心臓病」については、概ね加齢とともに高まる傾向にある。

図表 2-11 介護や支援が必要となった主な原因（男女別・年齢別）

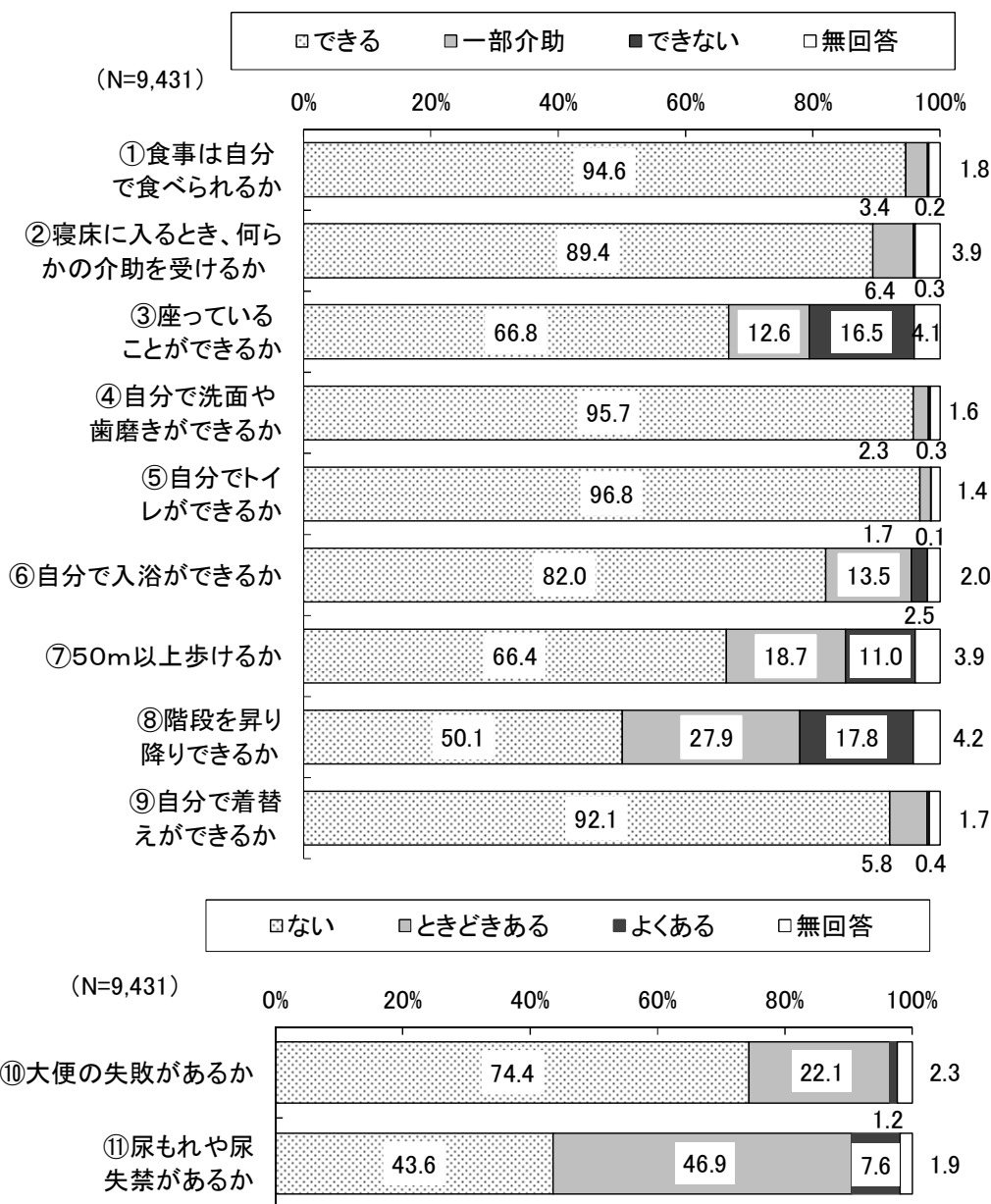
（単位：人・％）

	調査数（人）	高齢による衰弱 （筋力低下等）	骨折・転倒	関節の病気（関節 症等）	心臓病	脳卒中（脳出血・ 脳梗塞等）	脊椎損傷	糖尿病	視覚・聴覚障害	呼吸器の病気（肺 気腫・肺炎等）	がん（悪性新生 物）	パーキンソン病	認知症（アルツハ イマー病等）	その他	不明	無回答	
全体	9,431	29.4	25.2	25.1	17.0	11.7	10.1	10.0	8.6	6.6	5.7	1.8	1.7	15.4	0.4	7.7	
男女別	男性	2,531	30.6	14.9	15.8	21.7	21.0	11.3	14.7	10.4	10.1	7.8	2.4	2.2	13.8	0.5	6.7
	女性	6,900	29.0	29.0	28.5	15.3	8.2	9.6	8.3	8.0	5.2	4.9	1.6	1.5	15.9	0.3	8.0
年齢別	65歳未満	171	1.2	10.5	17.0	5.3	49.1	7.0	14.6	7.0	2.3	1.8	7.0	1.2	19.9	-	2.3
	65～69歳	451	10.0	13.7	20.4	14.0	24.2	8.0	18.6	8.4	7.1	4.9	3.5	0.4	24.2	0.7	4.2
	70～74歳	1,006	17.0	19.9	25.8	13.9	17.1	10.2	13.1	6.4	6.6	8.2	4.3	1.4	19.4	0.1	7.5
	75～79歳	1,891	22.8	25.0	28.2	15.8	13.3	12.2	11.2	6.5	6.3	7.0	2.5	1.4	17.3	0.3	7.1
	80～84歳	2,986	30.1	27.5	27.3	17.8	8.9	10.5	9.6	9.3	6.7	5.6	1.3	2.0	14.1	0.4	8.5
85歳以上	2,926	41.8	27.6	21.7	19.1	7.4	8.7	6.9	10.2	6.7	4.5	0.5	1.8	12.5	0.5	8.2	

3. 生活状況について

(1) 日常生活動作（ADL）の状況

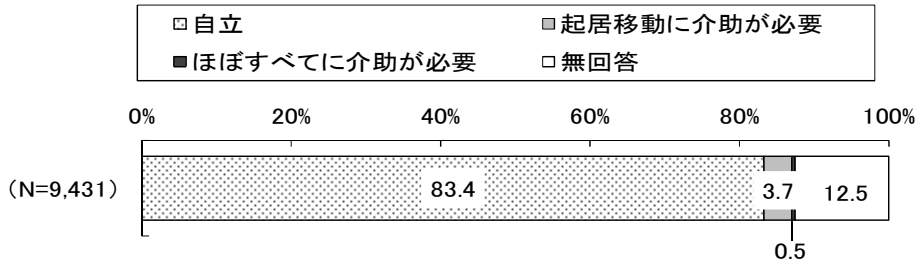
図表 3-1 日常生活動作（ADL）の状況



食事やトイレ、入浴等の日常生活を送るために必要な基本動作を示す日常生活動作（ADL）及びその他の関連動作 11 項目の状況について聞いた。

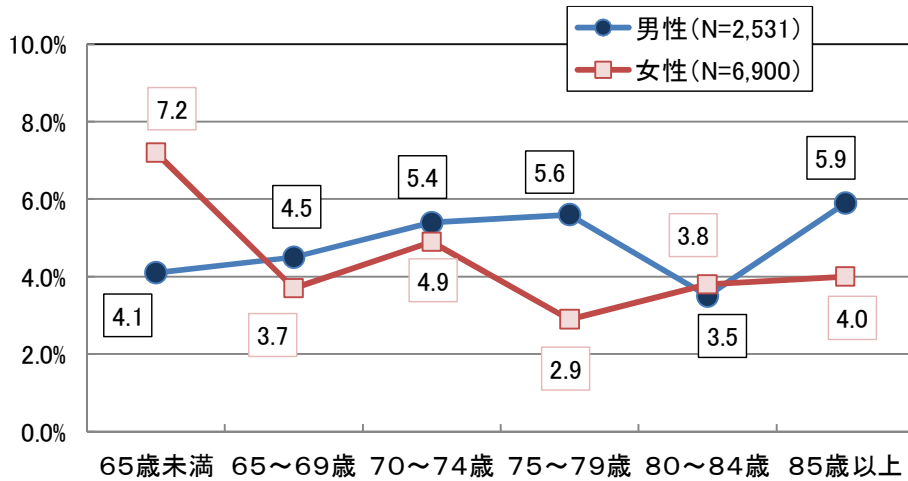
①『食事は自分で食べられるか』、⑤『自分でトイレができるか』⑨『自分で着替えができるか』などの項目については、「できる」と回答した人の割合が 9 割を超えている。一方、⑦『50m 以上歩けるか』、⑧『階段を昇り降りできるか』などの移動に関する項目については、「できる」と回答した人の割合がやや低くなっている。また、⑪『尿もれや尿失禁があるか』について「よくある」と「ときどきある」と回答した人を合わせた割合は 54.5%であり、5 割強を占めている。

図表 3-2 日常生活動作（ADL）の評価



※「起居移動に介助が必要」3.7%と、「ほぼすべてに介助が必要」0.5%を合わせた「要介助」の割合は、4.2%となっている。

図表 3-3 日常生活動作（ADL）の「要介助」の割合（男女別・年齢別）



食事やトイレ、入浴等の日常生活動作（ADL）における『自立』の割合は全体で83.4%、『要介助』の割合は4.2%となっている。

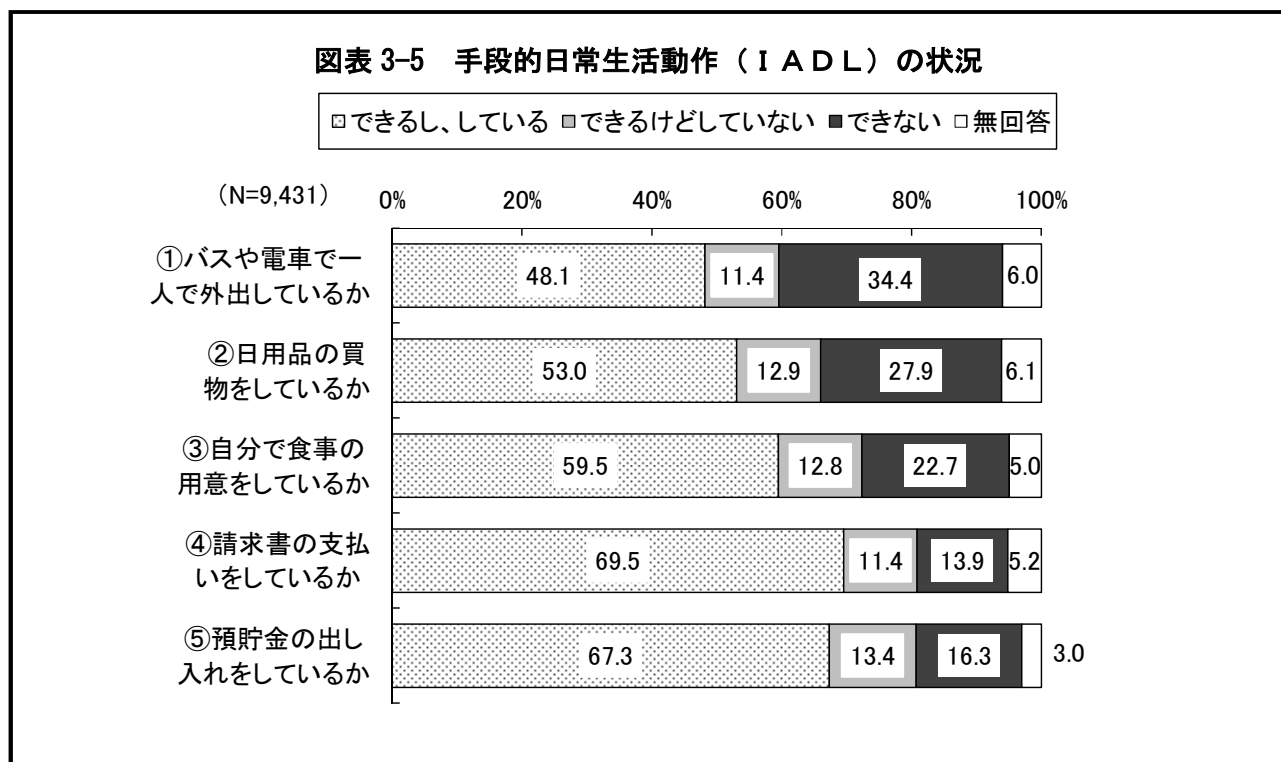
男女・年齢別にみると、『要介助』の割合は、男性では年齢が上がるにつれて概ね割合が高くなる傾向にある。

図表 3-4 日常生活動作（ADL）の評価（居住区別・要介護度別）

(単位：人・%)

		(人調査数)	自立	起居移動に介助が必要	ほぼすべてに介助が必要	無回答
全体		9,431	83.4	3.7	0.5	12.5
居住区別	門司区	1,324	84.2	4.5	-	11.3
	小倉北区	1,622	82.4	3.8	0.6	13.2
	小倉南区	1,832	83.0	4.1	0.4	12.4
	若松区	861	85.6	2.8	0.2	11.4
	八幡東区	904	84.0	3.4	0.2	12.4
	八幡西区	2,219	82.9	3.4	0.9	12.8
	戸畑区	653	85.0	3.5	0.5	11.0
要介護度別	要支援1	5,093	86.3	1.3	0.2	12.3
	要支援2	4,338	80.0	6.5	0.8	12.7

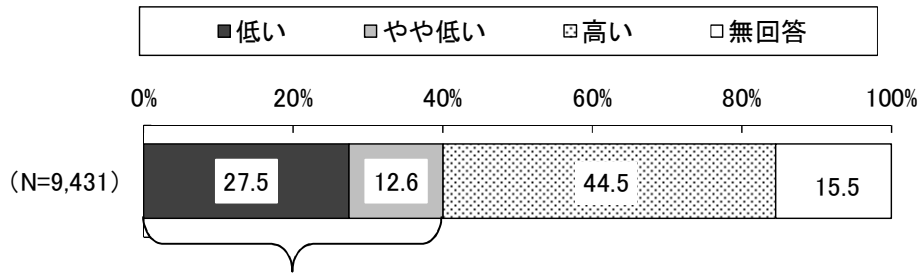
(2) 手段的日常生活動作 (I A D L) の状況



買い物や金銭管理等の高次の生活機能の水準を示す手段的日常生活動作 (I A D L) の 5 項目の状況について聞いた。

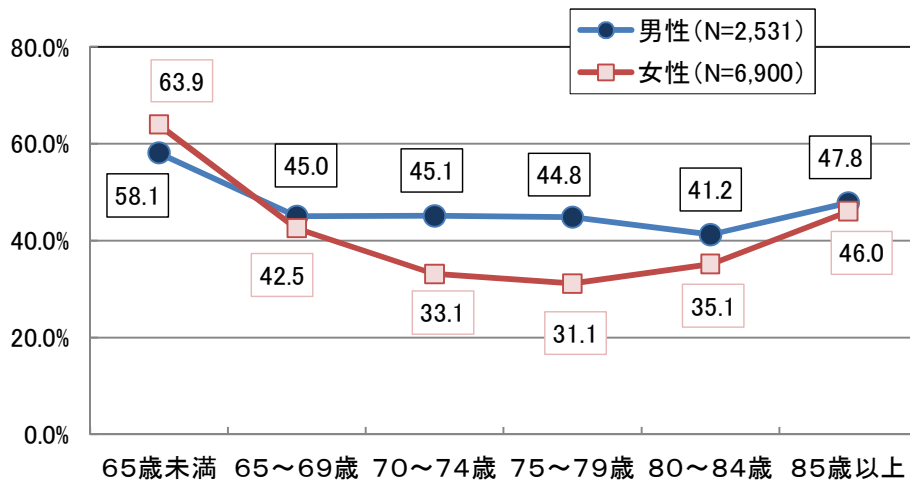
「できない」の割合は、①『バスや電車で一人で外出しているか』が 34.4% と最も高く、次いで②『日用品の買い物をしているか』 27.9%、③『自分で食事の用意をしているか』 22.7% の順となっており、外出が必要な項目において困難を示す割合が高くなる傾向にある。

図表 3-6 手段的日常生活動作（IADL）



※「低い」、「やや低い」を合わせた「低下」の割合は40.1%。

図表 3-7 手段的日常生活動作（IADL）の「低下」の割合（男女別・年齢別）



買い物や金銭管理等の手段的日常生活動作（IADL）をみると、『自立』の割合は全体で44.5%、『低下』の割合は40.1%となっている。

男女・年齢別にみると、『低下』の割合は、男女ともに65歳未満を除き、ほぼ差はみられない。要介護度別にみると、『低下』の割合は、要支援1（29.6%）より要支援2（52.3%）で高くなっている。

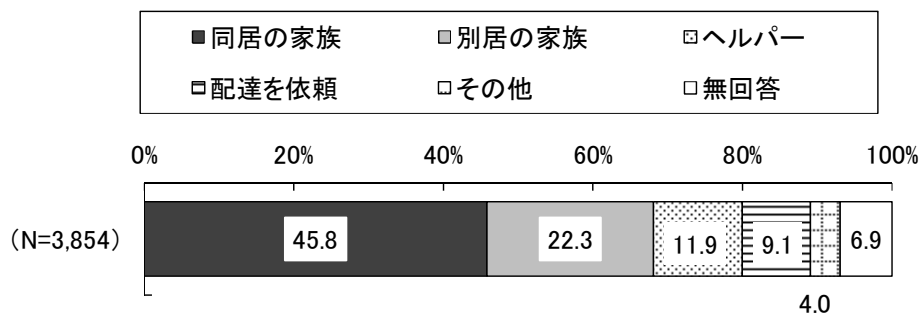
図表 3-8 手段的日常生活動作（IADL）の評価（居住区別・要介護度別）

（単位：人・%）

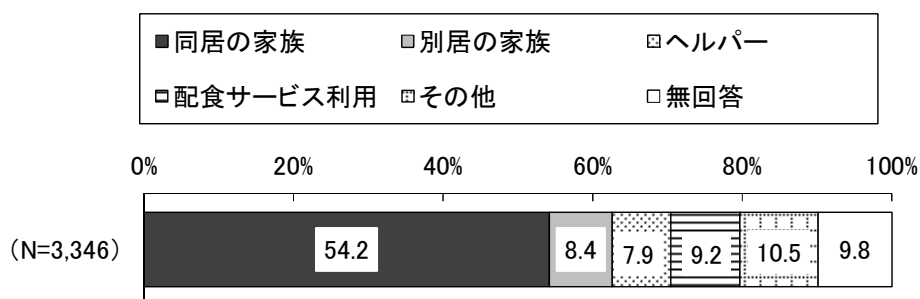
		（人調査数）	低い	やや低い	高い	無回答	【再掲】 （低い+やや低い） 低下
全体		9,431	27.5	12.6	44.5	15.5	40.1
居住区別	門司区	1,324	27.9	11.6	46.4	14.0	39.5
	小倉北区	1,622	28.4	10.5	45.2	15.9	38.9
	小倉南区	1,832	31.2	12.8	39.4	16.6	44.0
	若松区	861	24.4	14.4	48.9	12.3	38.8
	八幡東区	904	23.6	11.6	49.3	15.5	35.2
	八幡西区	2,219	27.7	13.6	43.4	15.3	41.3
	戸畑区	653	23.3	14.5	45.2	17.0	37.8
要介護度別	要支援1	5,093	17.8	11.8	55.9	14.5	29.6
	要支援2	4,338	38.9	13.4	31.0	16.6	52.3

(3) 代わりに日用品の買物や食事の用意をする人

図表 3-9 代わりに日用品の買物をする人



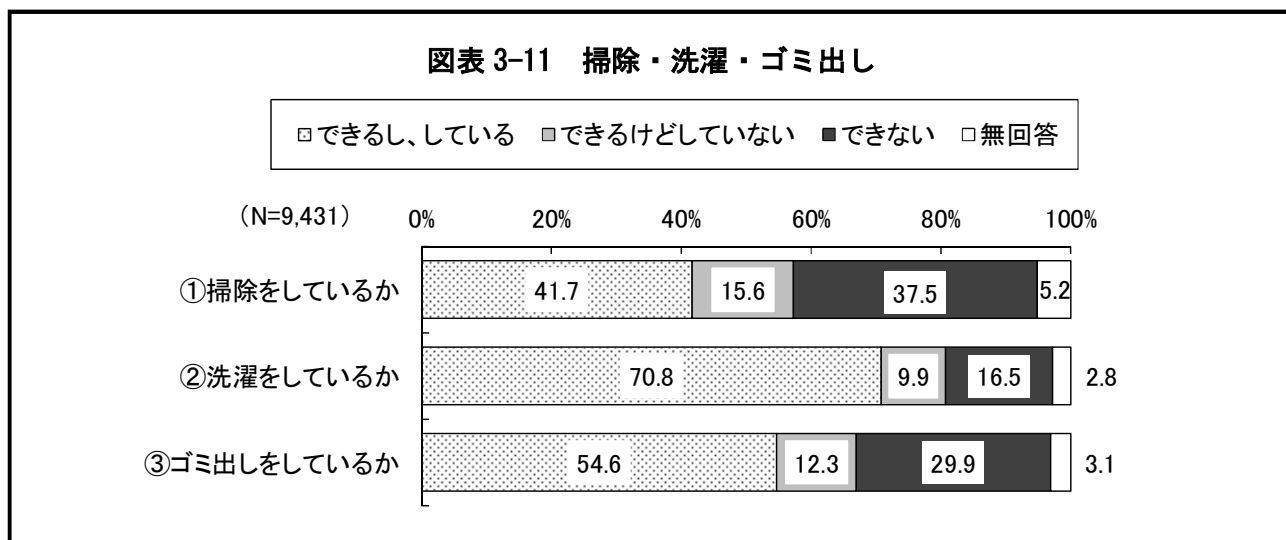
図表 3-10 代わりに食事の用意をする人



日用品の買物をしていない、できない人の代わりに買物をする人について聞いたところ、「同居の家族」と回答した人が 45.8%と最も高く、次いで「別居の家族」22.3%、「ヘルパー」11.9%の順となっている。

自分で食事の用意をしていない、できない人の代わりに食事の用意をする人について聞いたところ、「同居の家族」と回答した人が 54.2%と最も高く、次いで「配食サービス利用」9.2%、「別居の家族」8.4%の順となっている。

(4) 掃除・洗濯・ゴミ出しについて



掃除・洗濯・ゴミ出しの状況について聞いたところ、「できない」と回答した人の割合は、①『掃除をしているか』37.5%で最も高く、次いで③『ゴミ出しをしているか』29.9%、②『洗濯をしているか』16.5%の順となっている。

男女別にみると、①『掃除をしているか』、②『洗濯をしているか』の項目において「できるし、している」と回答した人の割合は、男性より女性で高くなっている。

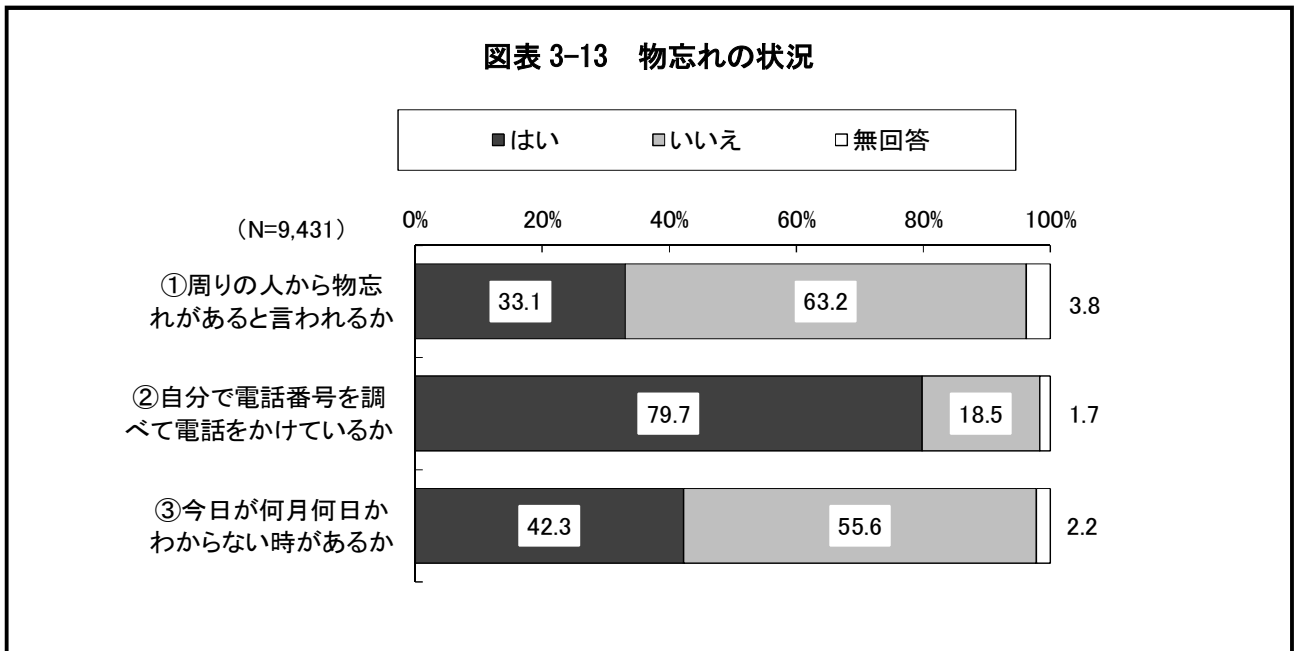
掃除や洗濯が「できるし、している」と回答した人の割合は女性で高く、掃除や洗濯、ゴミ出しが「できるけどしていない」と回答した人の割合は男性で高くなっている。

図表 3-12 掃除・洗濯・ゴミ出し（男女別）

(単位：人・%)

	調査数(人)	①掃除をしているか				②洗濯をしているか				③ゴミ出しをしているか			
		できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
全体	9,431	41.7	15.6	37.5	5.2	70.8	9.9	16.5	2.8	54.6	12.3	29.9	3.1
男女別													
男性	2,531	34.3	24.2	38.0	3.4	45.8	21.3	30.2	2.6	54.2	16.0	27.2	2.5
女性	6,900	44.4	12.4	37.3	5.9	79.9	5.7	11.5	2.9	54.8	10.9	30.9	3.4

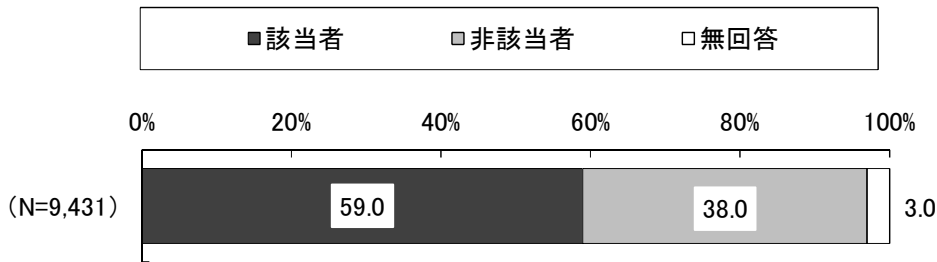
(5) 物忘れの状況



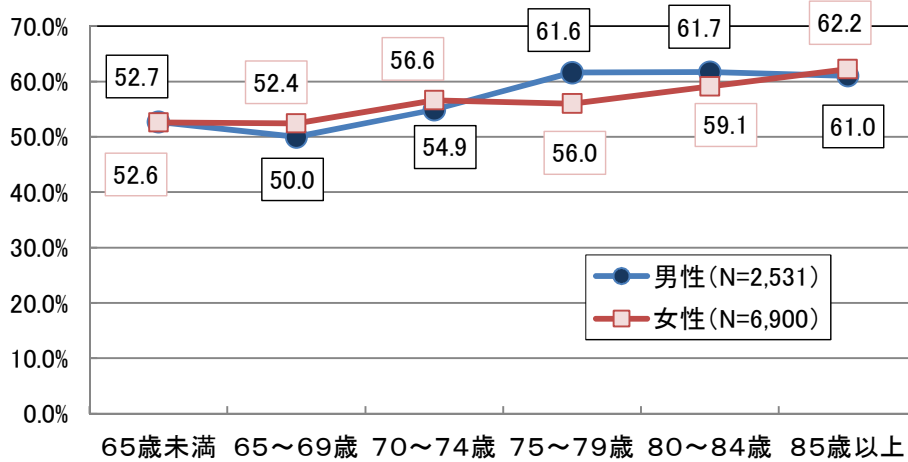
物忘れの状況について①～③の3項目の状況について聞いた。

「はい」のと回答した人の割合は、②『自分で電話番号を調べて電話をかけているか』が79.7%と最も高く、次いで、③『今日が何月何日かわからない時があるか』42.3%、①『周りの人から物忘れがあるとされるか』33.1%の順となっている。

図表 3-14 物忘れの状況評価



図表 3-15 物忘れの状況評価（「該当者」の割合）（男女・年齢別）



国の基本チェックリストに基づき、物忘れや記憶力の低下のリスクについて評価を行った。リスクがあることを示す「該当者」（1点以上の者）の割合は全体で59.0%となっている。

年齢別にみると、「該当者」の割合は、加齢とともに高くなる傾向にある。

要介護度別にみると、「該当者」の割合は、要支援1（56.1%）より要支援2（62.4%）で高くなっている。

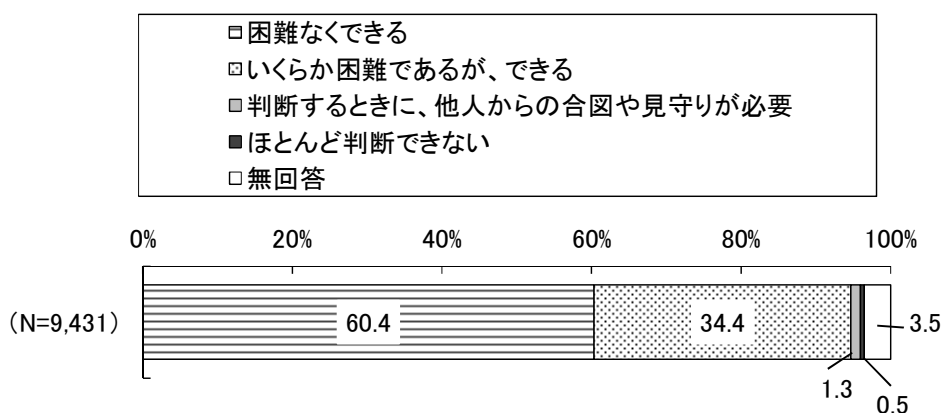
図表 3-16 物忘れの状況評価（居住区別・要介護度別）

(単位：人・%)

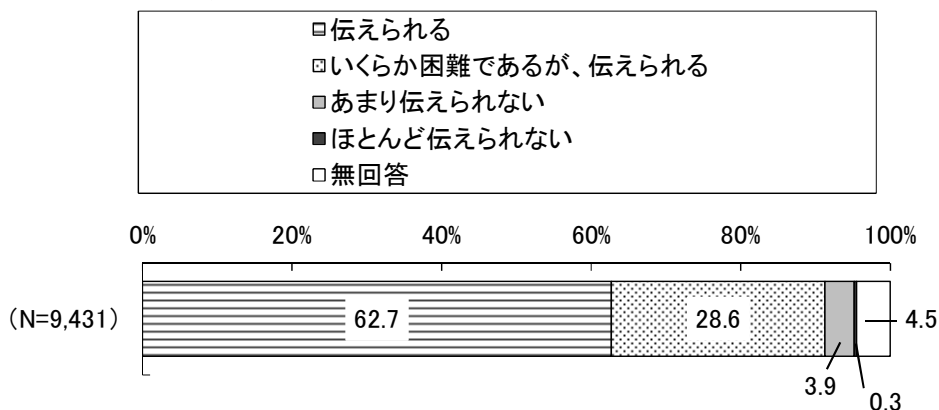
		(人調査数)	該当者	非該当者	無回答
全体		9,431	59.0	38.0	3.0
居住区別	門司区	1,324	59.9	37.5	2.6
	小倉北区	1,622	58.1	39.0	2.9
	小倉南区	1,832	62.2	35.2	2.6
	若松区	861	57.7	39.7	2.6
	八幡東区	904	58.7	38.3	3.0
	八幡西区	2,219	59.3	37.4	3.4
	戸畑区	653	53.0	44.9	2.1
要介護度別	要支援1	5,093	56.1	40.7	3.2
	要支援2	4,338	62.4	34.8	2.8

(6) 判断や意思伝達の状況

図表 3-17 その日の活動を自分で判断できるか



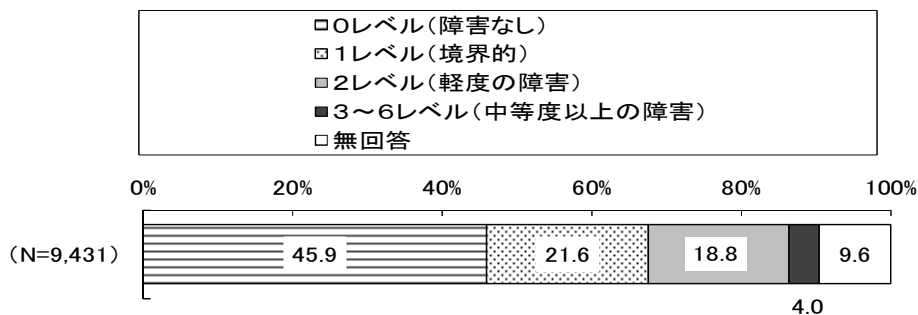
図表 3-18 人に自分の考えをうまく伝えられるか



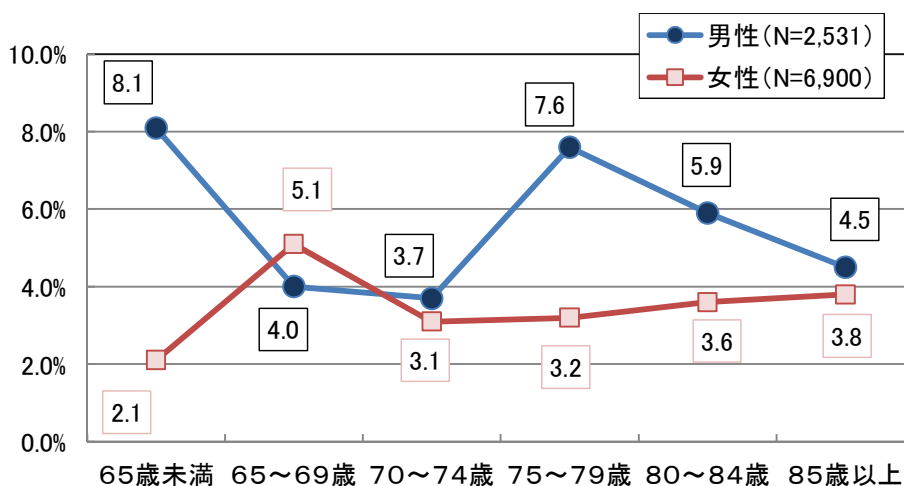
その日の活動（食事をする、衣類を選ぶ等）を自分で判断できるかについて聞いたところ、「困難なくできる」と回答した人が60.4%と最も高く、次いで「いくらか困難であるが、できる」34.4%、「判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」1.3%の順となっている。

人に自分の考えをうまく伝えられるかについて聞いたところ、「伝えられる」と回答した人が62.7%と最も高く、次いで「いくらか困難であるが、伝えられる」28.6%、「あまり伝えられない」3.9%の順となっている。

図表 3-19 認知機能障害程度（CPS）の評価



図表 3-20 認知機能障害程度（CPS）の評価
（3～6レベル[中等度以上の障害]の割合）（男女・年齢別）



認知症に関わるリスク状況について、基本チェックリストとは別に、認知機能の障害程度指標として有用されている指標（CPS）に基づき評価したところ、「0レベル（障害なし）」、「1レベル（境界的）」を合わせた割合は全体で67.5%であり、「3～6レベル（中等度以上の障害）」の割合は全体で4.0%となっている。

要介護度別にみると、「0レベル（障害なし）」の割合は、要支援2（40.4%）より要支援1（50.6%）で高く、「1レベル（境界的）」以上になると、要支援2で高くなっている。

図表 3-21 認知機能障害程度（CPS）の評価（居住区別・要介護度別）

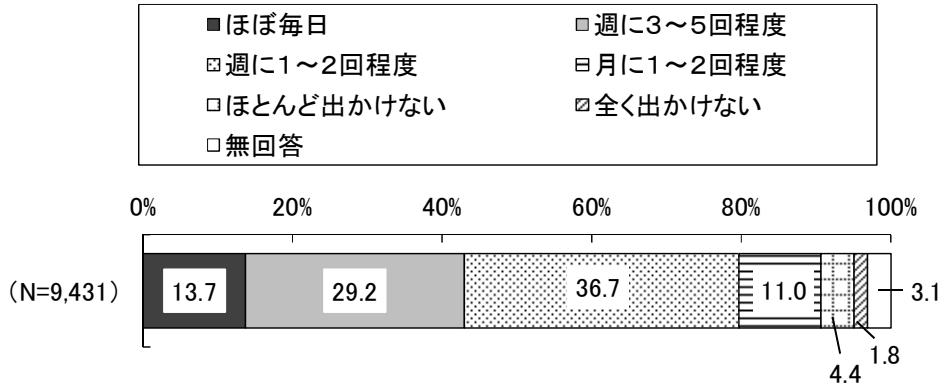
（単位：人・％）

		調査数 （人）	なし レベル （障害）	的1 レベル （境界）	の2 レベル （軽度 障害）	障 害 （3 ～ 6 レ ベ ル 以 上 の）	無 回 答
全 体		9,431	45.9	21.6	18.8	4.0	9.6
居 住 区 別	門司区	1,324	44.4	22.7	19.8	3.8	9.3
	小倉北区	1,622	46.1	22.0	17.6	4.6	9.7
	小倉南区	1,832	42.8	21.1	22.1	4.8	9.2
	若松区	861	46.1	21.7	18.9	3.2	10.0
	八幡東区	904	48.7	20.9	17.0	3.7	9.7
	八幡西区	2,219	47.4	21.5	17.8	4.1	9.2
	戸畑区	653	49.5	21.1	16.7	3.0	9.8
要 介 護 度 別	要支援1	5,093	50.6	20.5	16.0	3.2	9.6
	要支援2	4,338	40.4	22.9	22.1	5.1	9.6

(7) 外出の頻度

問9 日ごろ、どのくらい出かけていますか。(○は1つ)

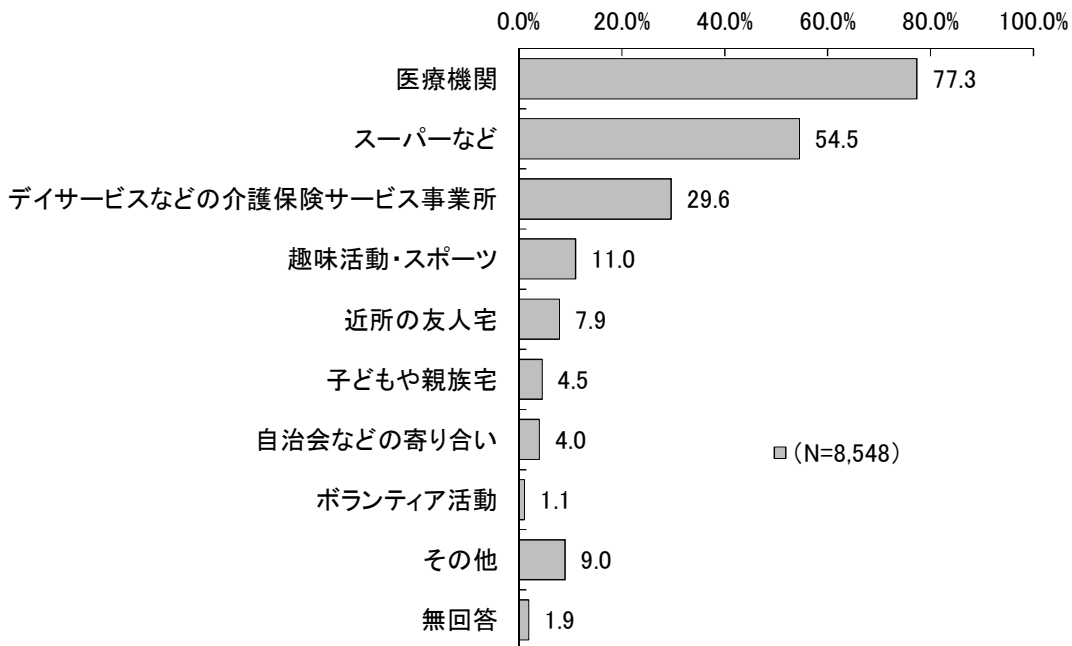
図表 3-22 外出の頻度



【問9で、「1. ほぼ毎日」、「2. 週に3~5回程度」、「3. 週に1~2回程度」、「4. 月に1~2回程度」と答えた方のみ】

問9-1 主にどこに出かけていますか。(○はいくつでも)

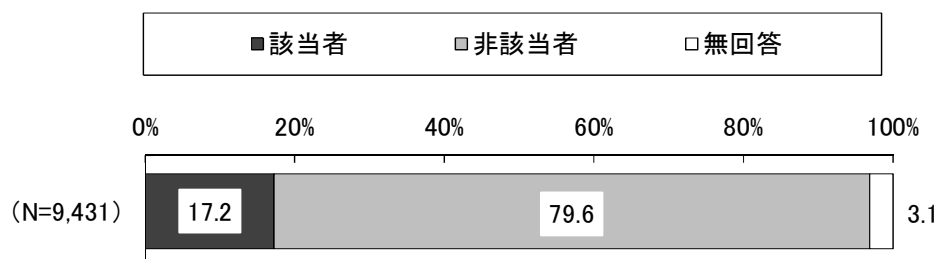
図表 3-23 主な外出先



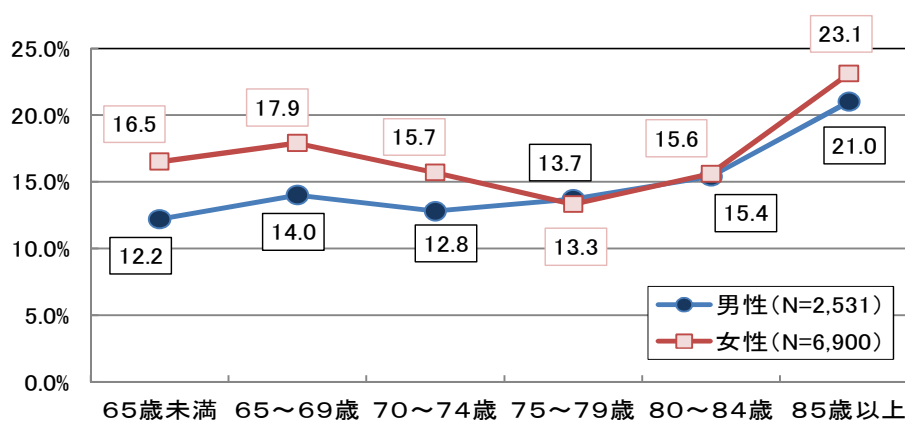
日ごろ、どのくらい出かけているかについて聞いたところ、「週に1~2回程度」と回答した人が36.7%と最も高く、「週に3~5回程度」(29.2%)、「ほぼ毎日」(13.7%)を合わせた週に1回以上外出している人の割合は、約8割を占めている。

日ごろ、出かけている人に主な外出先を聞いたところ、「医療機関」と回答した人が77.3%と最も高く、次いで「スーパーなど」54.5%、「デイサービスなどの介護保険サービス事業所」29.6%の順となっている。

図表 3-24 閉じこもりのリスク



図表 3-25 閉じこもりのリスクについて（「該当者」の割合）（男女別・年齢別）



基本チェックリストに基づく閉じこもりのリスクについて、「非該当者」の割合は全体で 79.6% であり、「該当者」の割合は 17.2% となっている。

男女・年齢別にみると、「該当者」の割合は、男女ともに 85 歳以上で最も高くなっている。（男性：21.0%、女性：23.1%）

要介護度別にみると、「該当者」の割合は、要支援 1（13.8%）より要支援 2（21.3%）で高くなっている。

図表 3-26 閉じこもりのリスクについて（居住区別・要介護度別）

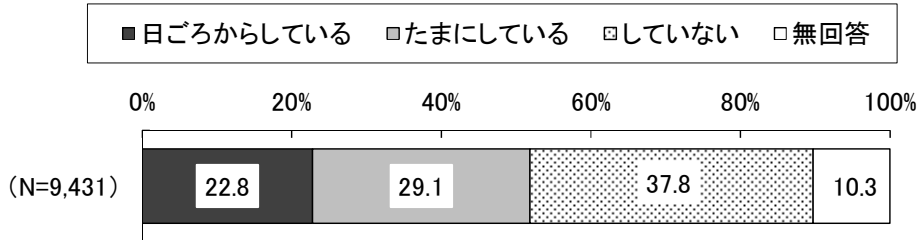
（単位：人・%）

		（人調査数）	該当者	非該当者	無回答
全体		9,431	17.2	79.6	3.1
居住区別	門司区	1,324	18.4	78.9	2.7
	小倉北区	1,622	19.0	77.4	3.6
	小倉南区	1,832	20.6	77.0	2.4
	若松区	861	15.9	81.8	2.3
	八幡東区	904	14.3	83.2	2.5
	八幡西区	2,219	15.6	80.5	3.8
	戸畑区	653	12.6	83.5	4.0
要介護度別	要支援1	5,093	13.8	83.3	2.9
	要支援2	4,338	21.3	75.3	3.4

(8) 趣味活動

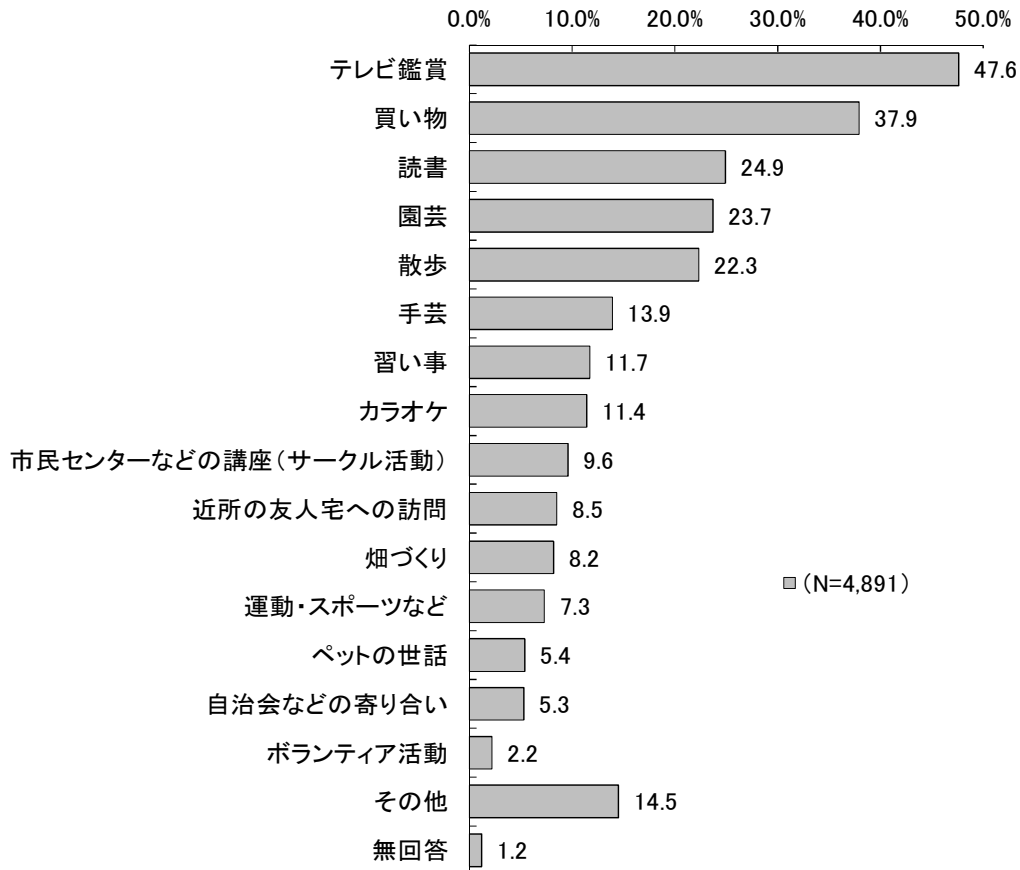
問 10 何か楽しみなことや趣味活動をしていますか。(○は1つ)

図表 3-27 楽しみや趣味活動の頻度



【問 10 で、「1. 日ごろからしている」、「2. たまにしている」と答えた方のみ】
問 10-1 主に何をしていますか。(○はいくつでも)

図表 3-28 楽しみや趣味活動の内容



楽しみなことや趣味活動について聞いたところ、「していない」と回答した人が 37.8%と最も高く、次いで「たまにしている」29.1%、「日ごろからしている」22.8%となっている。

また、「日ごろからしている」、「たまにしている」と回答した人を合わせた『している』人の割合は、51.9%と約半数を占めている。

楽しみなことや趣味活動を『している』と回答した人にその内容を聞いたところ、「テレビ鑑賞」が 47.6%と最も高く、次いで「買い物」37.9%、「読書」24.9%の順となっている。

年齢別にみると、楽しみなことや趣味活動を「していない」と回答した人の割合は、加齢とともに低くなる傾向にある。

要介護度別にみると、「日ごろからしている」と回答した人の割合は、要支援2（18.8%）より要支援1（26.2%）で高くなっている。一方、「していない」と回答した人の割合は、要支援1（33.2%）より要支援2（43.3%）で高くなっている。

図表 3-29 楽しみや趣味活動の頻度（男女別・年齢別・要介護度別）

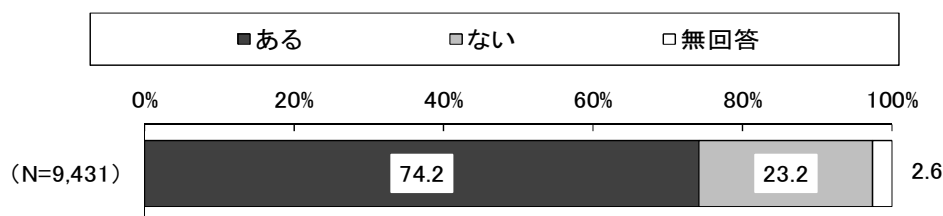
（単位：人・％）

		調査数 (人)	日ごろ から している	たまに している	して いない	無 回 答
全 体		9,431	22.8	29.1	37.8	10.3
男 女 別	男性	2,531	24.1	29.2	36.9	9.8
	女性	6,900	22.3	29.0	38.2	10.5
年 齢 別	65歳未満	171	24.6	36.8	36.8	1.8
	65～69歳	451	21.3	28.6	44.3	5.8
	70～74歳	1,006	21.5	31.3	41.1	6.2
	75～79歳	1,891	23.3	30.2	36.9	9.6
	80～84歳	2,986	22.0	28.9	36.7	12.4
	85歳以上	2,926	23.8	27.4	37.6	11.2
要 介 護 度 別	要支援1	5,093	26.2	29.9	33.2	10.7
	要支援2	4,338	18.8	28.1	43.3	9.8

(9) 定期的な訪問者の有無

問 11 定期的にどなたか訪ねてくることがありますか。(○は1つ)

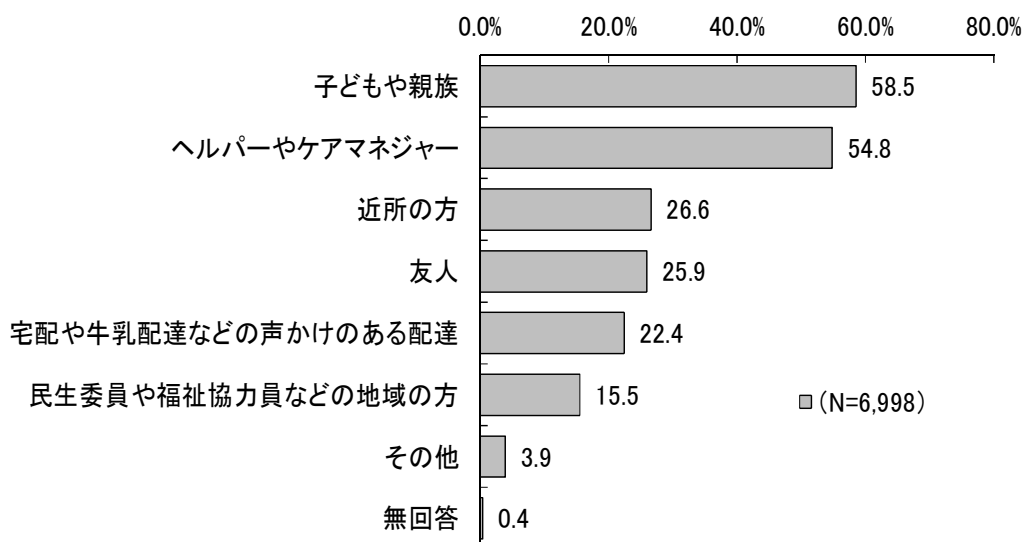
図表 3-30 定期的な訪問者の有無



【問 11 で、「1. ある」と答えた方のみ】

問 11-1 訪ねてくる方はどのような方ですか。(○はいくつでも)

図表 3-31 訪問者



定期的に誰かが訪ねてくることがあるかについて聞いたところ、「ある」と回答した人が 74.2%、「ない」が 23.2%となっている。

男女別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性（63.7%）より女性（78.1%）で高くなっている。

世帯状況別にみると、「ある」と回答した人の割合は、独居世帯が 84.4%と最も高く、「ない」と回答した人の割合は、同居世帯が 35.5%と最も高くなっている。

定期的に誰かが訪ねてくることがあると回答した人に具体的な訪問者を聞いたところ、「子どもや親族」と回答した人が 58.5%と最も高く、次いで「ヘルパーやケアマネジャー」54.8%、「近所の方」26.6%の順となっている。

図表3-32 定期的な訪問者の有無、訪問者（男女別・年齢別・世帯状況別）

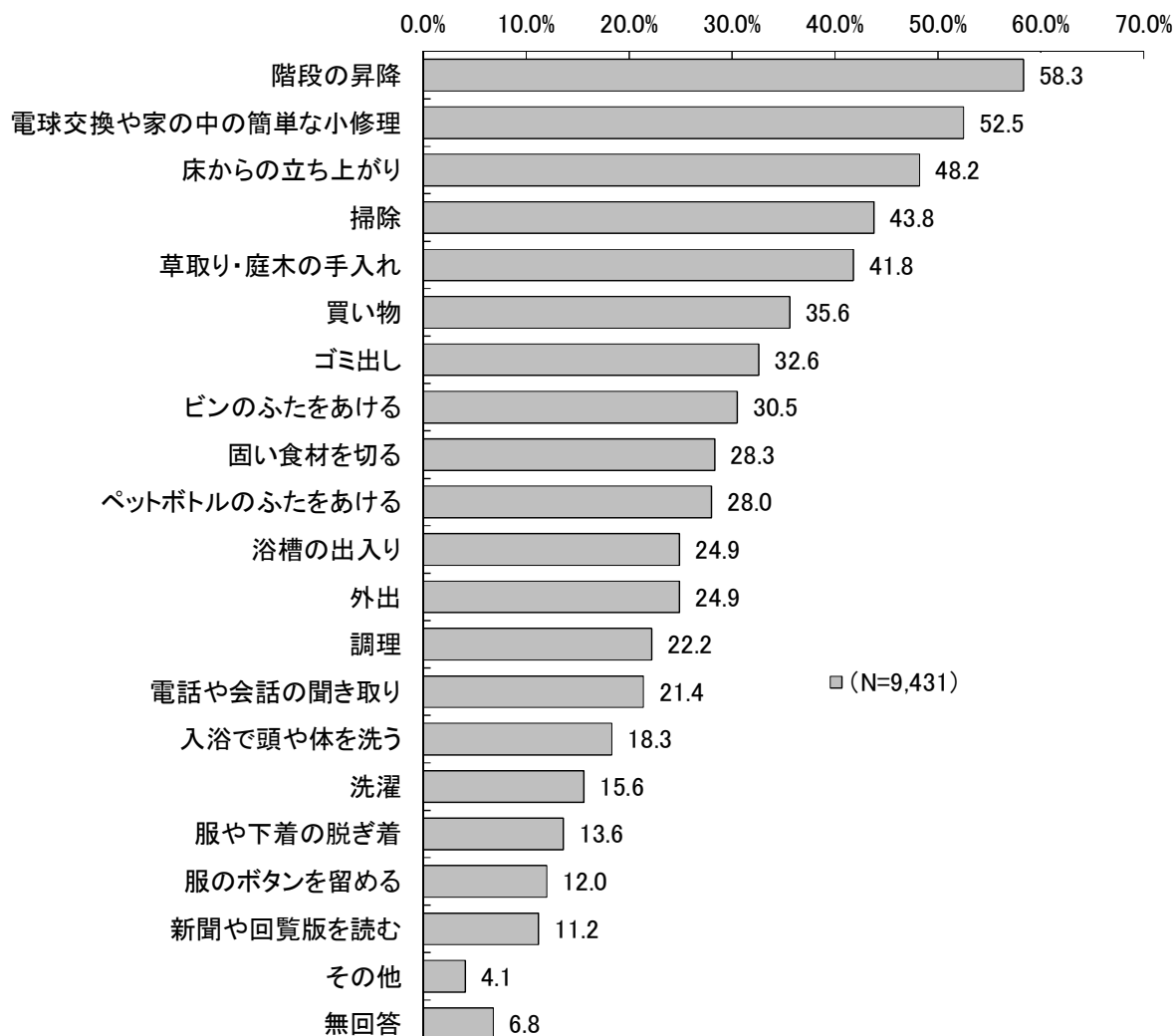
（単位：人・％）

	調査数（人）	定期的な訪問者の有無			調査数	訪問者								
		ある	ない	無回答		子どもや親族	ヘルパーやケアマネ	近所の方	友人	声かけや牛乳配達などの	宅配や牛乳配達などの	民生委員や福祉協力の	その他	無回答
全体	9,431	74.2	23.2	2.6	6,998	58.5	54.8	26.6	25.9	22.4	15.5	3.9	0.4	
男女別	男性	2,531	63.7	33.1	3.2	1,612	56.7	53.5	18.8	18.9	18.3	13.8	4.5	0.4
	女性	6,900	78.1	19.6	2.3	5,386	59.0	55.2	29.0	27.9	23.6	16.0	3.7	0.4
年齢別	65歳未満	171	69.6	28.7	1.8	119	48.7	67.2	12.6	31.1	16.8	0.8	4.2	-
	65～69歳	451	72.9	24.8	2.2	329	41.9	61.4	18.8	28.0	17.3	8.2	2.1	0.6
	70～74歳	1,006	69.2	28.1	2.7	696	48.3	55.3	24.6	33.6	18.7	12.6	3.7	0.3
	75～79歳	1,891	71.4	26.3	2.3	1,350	53.5	54.6	30.4	29.0	22.7	16.7	4.1	0.4
	80～84歳	2,986	75.3	21.9	2.9	2,247	60.3	53.5	28.5	26.0	23.5	16.5	4.1	0.4
	85歳以上	2,926	77.1	20.4	2.5	2,257	65.8	54.5	25.0	20.9	23.2	16.5	3.8	0.5
世帯状況別	独居世帯	4,266	84.4	13.4	2.3	3,599	58.0	60.6	28.5	28.2	23.0	21.6	4.3	0.4
	高齢者のみの世帯	2,900	68.5	28.7	2.8	1,986	62.0	50.0	24.6	23.0	21.4	9.7	3.4	0.5
	同居世帯	1,968	62.1	35.5	2.4	1,223	54.8	46.9	24.4	23.8	22.3	7.3	3.8	0.2

(10) 不自由を感じている日常生活上の行為

問 12 日ごろ、不自由を感じている日常生活上の行為は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 3-33 不自由を感じている日常生活上の行為



日ごろ、不自由を感じている日常生活上の行為について聞いたところ、「階段の昇降」と回答した人が 58.3%と最も高く、次いで「電球交換や家の中の簡単な小修理」52.5%、「床からの立ち上がり」48.2%の順となっている。

男女別にみると、多くの項目で不自由を感じている人の割合が男性より女性で高くなっている。

世帯状況別にみると、独居世帯では「電球交換や家の中の簡単な小修理」、「掃除」等で不自由を感じている人の割合が他の世帯に比べ高くなっている。

要介護度別にみると、すべての項目で不自由を感じている人の割合が要支援1より要支援2で高く、19項目のうち11項目で10ポイント以上の差となっている。

図表 3-34 不自由を感じている日常生活上の行為（男女別・年齢別・世帯状況別・要介護度別）

(単位：人・%)

		調査数（人）	階段の昇降	の電球交換や家の簡単な小修理の中	り床からの立ち上がり	掃除	草取り・庭木の手入れ	買い物	ゴミ出し	るビンのふたをあける	固い食材を切る	たをペットボトルのふ	浴槽の出入り
全体		9,431	58.3	52.5	48.2	43.8	41.8	35.6	32.6	30.5	28.3	28.0	24.9
男女別	男性	2,531	54.0	35.9	42.0	35.1	36.8	29.0	24.0	13.7	14.4	14.1	19.3
	女性	6,900	59.9	58.7	50.5	47.0	43.6	38.0	35.7	36.6	33.4	33.1	27.0
年齢別	65歳未満	171	53.8	50.9	52.6	45.6	40.9	42.7	44.4	36.3	41.5	36.3	29.2
	65～69歳	451	60.8	51.0	47.9	48.8	37.7	36.6	37.5	30.2	35.3	29.3	28.2
	70～74歳	1,006	57.8	50.8	49.3	42.5	37.6	33.7	31.5	29.5	31.3	28.1	25.4
	75～79歳	1,891	60.6	52.6	48.8	42.5	42.1	33.6	31.1	29.8	28.0	28.0	25.2
	80～84歳	2,986	59.4	53.8	49.1	45.1	43.4	34.7	31.6	29.7	26.6	26.6	24.5
	85歳以上	2,926	55.7	52.2	46.3	42.8	42.0	37.8	33.3	31.8	27.4	28.7	24.2
世帯状況別	独居世帯	4,266	56.7	62.0	47.9	47.7	42.6	36.4	31.3	32.9	29.7	30.0	26.1
	高齢者のみの世帯	2,900	58.3	45.9	46.9	41.0	41.4	34.3	32.4	25.4	26.3	23.9	22.2
	同居世帯	1,968	62.4	44.2	51.1	40.8	41.2	36.3	36.6	33.1	29.4	30.5	27.1
要介護度別	要支援1	5,093	53.2	50.1	42.7	38.1	39.8	29.2	24.8	27.0	23.3	24.1	17.7
	要支援2	4,338	64.2	55.4	54.6	50.5	44.1	43.0	41.7	34.6	34.2	32.5	33.4

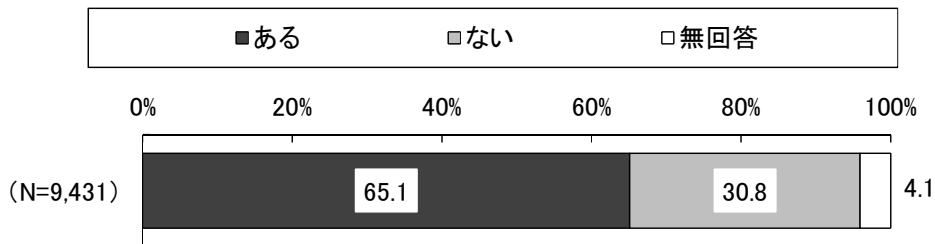
		調査数（人）	外出	調理	取り電話や会話の聞き	う入浴で頭や体を洗	洗濯	服や下着の脱ぎ着	る服のボタンを留め	む新聞や回覧版を読む	その他	無回答
全体		9,431	24.9	22.2	21.4	18.3	15.6	13.6	12.0	11.2	4.1	6.8
男女別	男性	2,531	20.0	27.3	23.0	16.2	19.3	16.3	15.5	10.9	4.4	10.0
	女性	6,900	26.8	20.4	20.8	19.1	14.2	12.7	10.8	11.3	4.0	5.7
年齢別	65歳未満	171	29.2	38.0	6.4	27.5	25.1	28.1	24.0	11.1	6.4	3.5
	65～69歳	451	22.8	29.7	9.5	22.8	18.2	19.5	18.0	12.6	4.7	6.7
	70～74歳	1,006	22.9	20.4	13.5	18.6	14.0	16.5	13.0	10.1	4.4	8.1
	75～79歳	1,891	23.1	19.6	16.1	17.3	14.5	13.6	11.5	10.3	4.0	6.2
	80～84歳	2,986	24.0	20.5	21.1	17.6	13.9	12.2	10.8	11.2	3.8	6.7
	85歳以上	2,926	27.9	24.2	30.6	18.4	17.5	12.4	11.8	12.0	4.1	7.2
世帯状況別	独居世帯	4,266	23.7	20.8	20.1	18.6	12.6	11.2	10.3	11.1	4.3	5.6
	高齢者のみの世帯	2,900	23.8	22.3	20.4	17.3	18.2	14.8	12.8	10.9	4.1	8.5
	同居世帯	1,968	29.9	25.4	25.9	19.8	18.9	17.5	15.0	11.8	3.6	6.4
要介護度別	要支援1	5,093	18.3	17.1	19.9	12.2	10.8	9.3	9.1	9.3	3.9	8.4
	要支援2	4,338	32.8	28.2	23.1	25.6	21.2	18.8	15.5	13.4	4.3	5.0

4. 介護保険サービス等について

(1) 介護保険サービスの利用有無と種類

問 13 現在、利用している介護保険サービスはありますか。(○は1つ)

図表 4-1 介護保険サービスの利用有無

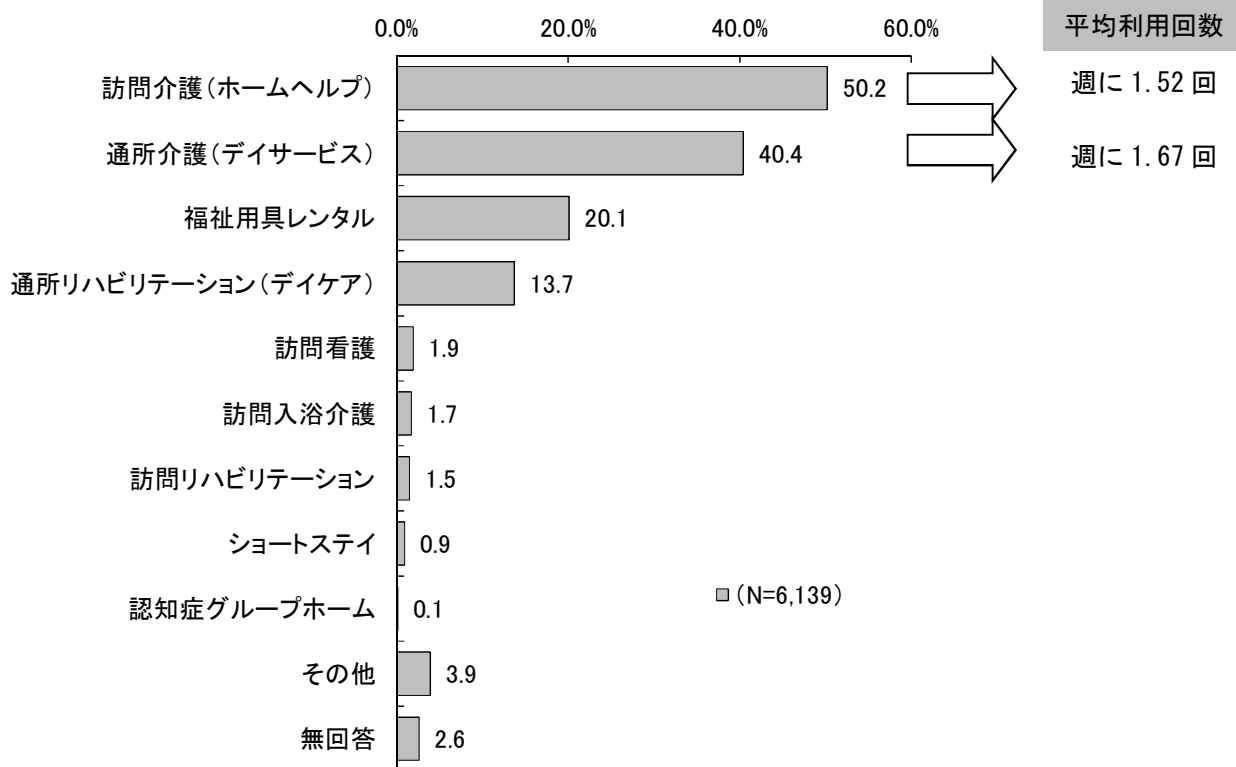


【問13で、「1. ある」と答えた方のみ】

問 13-1 どのような介護保険サービスを利用していますか。(○はいくつでも)

※「1. 訪問介護 (ホームヘルプ)」「2. 通所介護 (デイサービス)」に○をつけた方は、利用頻度もご記入ください。

図表 4-2 利用している介護保険サービスの種類



現在、利用している介護保険サービスがあるかについて聞いたところ、「ある」が65.1%、「ない」が30.8%となっている。

男女別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性（59.3%）より女性（67.2%）で高くなっている。

世帯状況別にみると、「ある」と回答した人の割合は、独居世帯が73.9%と最も高くなっている。

要介護度別にみると、「ある」と回答した人の割合は、要支援1（59.7%）より要支援2（71.5%）で高くなっている。

現在、利用している介護保険サービスがあると回答した人に具体的なサービスを聞いたところ、「訪問介護（ホームヘルプ）」と回答した人が50.2%と最も高く、次いで「通所介護（デイサービス）」40.4%、「福祉用具レンタル」20.1%の順となっている。

世帯状況別にみると、「訪問介護（ホームヘルプ）」を受けている人の割合は、独居世帯が64.5%と最も高くなっている。一方、同居世帯では「通所介護（デイサービス）」（51.9%）や「福祉用具レンタル」（24.7%）の割合が他の世帯に比べ高くなっている。

要介護度別にみると、「訪問介護（ホームヘルプ）」を受けている人の割合は、要支援1で高く、「通所介護（デイサービス）」や「福祉用具レンタル」を受けている人の割合は、要支援2で高くなっている。

図表 4-3 介護保険サービスの利用の有無
(男女別・世帯状況別・要介護度別・居住区別)

(単位：人・%)

		(人調査数)	ある	ない	無回答
全体		9,431	65.1	30.8	4.1
男女別	男性	2,531	59.3	36.0	4.7
	女性	6,900	67.2	28.9	3.9
世帯状況別	独居世帯	4,266	73.9	22.4	3.7
	高齢者のみの世帯	2,900	56.7	38.5	4.8
	同居世帯	1,968	59.6	37.3	3.1
要介護度別	要支援1	5,093	59.7	36.2	4.2
	要支援2	4,338	71.5	24.5	4.1
居住区別	門司区	1,324	63.5	32.6	3.9
	小倉北区	1,622	69.8	25.7	4.5
	小倉南区	1,832	68.7	27.8	3.5
	若松区	861	58.9	37.9	3.3
	八幡東区	904	64.8	31.2	4.0
	八幡西区	2,219	63.7	32.0	4.3
	戸畑区	653	59.6	34.6	5.8

図表 4-4 利用している介護保険サービスの種類
(男女別・世帯状況別・要介護度別・居住区別)

(単位：人・%)

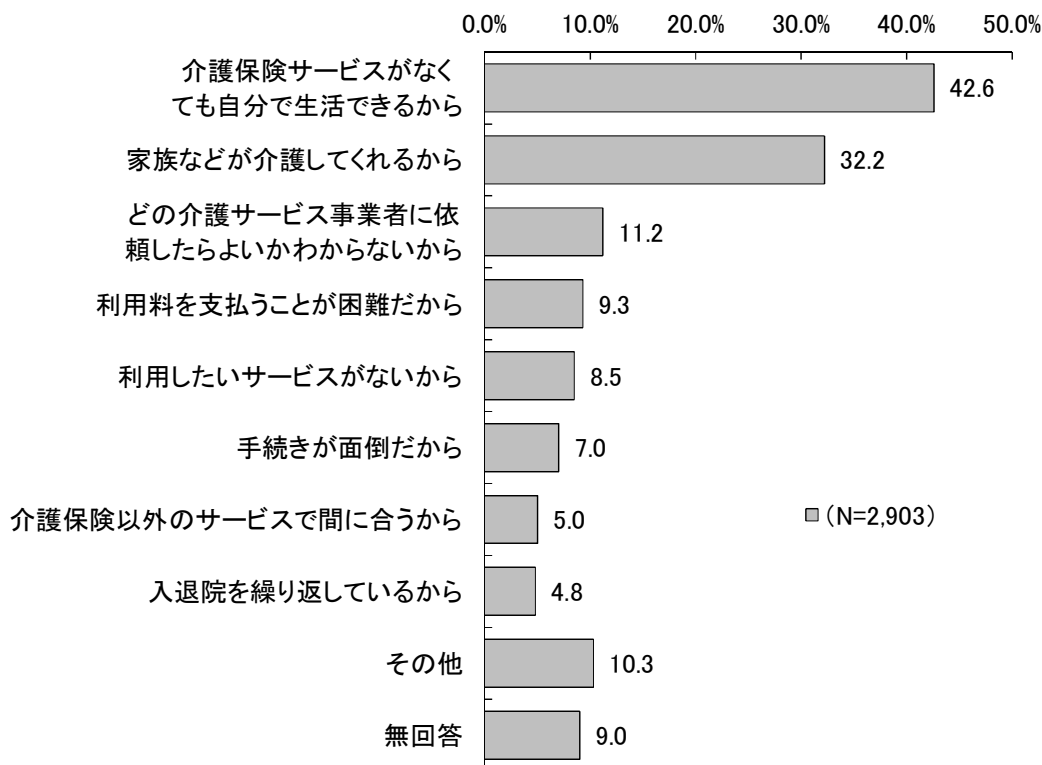
		(人調査数)	訪問介護 (ホームヘルプ)	通所介護(デイサービス)	福祉用具レンタル	通所リハビリ(デイケア)	訪問看護	訪問入浴介護	訪問リハビリ	ショートステイ	認知症グループホーム	その他	無回答
全体		6,139	50.2	40.4	20.1	13.7	1.9	1.7	1.5	0.9	0.1	3.9	2.6
男女別	男性	1,500	42.8	40.0	19.9	16.4	3.1	1.7	2.0	0.7	0.2	4.1	2.7
	女性	4,639	52.6	40.5	20.1	12.8	1.5	1.7	1.4	0.9	0.0	3.8	2.5
世帯状況別	独居世帯	3,152	64.5	38.1	16.8	10.8	2.2	1.7	0.8	0.3	0.0	3.6	2.3
	高齢者のみの世帯	1,643	41.9	36.2	22.8	16.1	1.9	1.9	2.3	1.5	0.2	4.2	3.2
	同居世帯	1,172	25.9	51.9	24.7	18.5	1.2	1.2	2.5	1.4	-	3.2	2.1
要介護度別	要支援1	3,038	52.1	36.9	13.6	12.0	1.7	0.8	1.1	0.6	0.0	4.6	2.9
	要支援2	3,101	48.4	43.7	26.4	15.3	2.1	2.5	2.0	1.1	0.1	3.2	2.3
居住区別	門司区	841	55.5	35.3	20.0	10.5	1.8	1.8	2.1	0.8	-	4.8	2.7
	小倉北区	1,132	57.9	37.1	19.9	10.9	2.8	1.7	1.3	0.3	0.1	3.3	2.7
	小倉南区	1,258	43.7	42.7	18.3	16.1	2.1	2.1	1.6	1.0	0.1	4.5	2.3
	若松区	507	47.9	37.7	18.5	20.7	1.6	1.6	1.0	0.8	0.2	2.8	3.0
	八幡東区	586	50.9	44.9	17.4	10.9	2.2	0.9	2.0	1.2	0.2	3.6	3.1
	八幡西区	1,414	47.1	44.3	22.0	13.7	1.1	1.9	1.3	1.1	-	3.7	2.2
	戸畑区	389	51.2	35.5	26.0	15.4	1.5	0.8	1.3	1.3	-	4.4	2.6

(2) 介護保険サービスを利用していない理由

【問13で、「2. ない」と答えた方のみ】

問13-2 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 4-5 介護保険サービスを利用していない理由



現在、利用している介護保険サービスがないと回答した人にその理由を聞いたところ、「介護保険サービスがなくとも自分で生活できるから」と回答した人が42.6%と最も高く、次いで「家族などが介護してくれるから」32.2%と、この2項目が主な理由となっている。

要介護度別にみると、「介護保険サービスがなくとも自分で生活できるから」と回答した人の割合は、要支援2(33.9%)より要支援1(47.6%)で高くなっている。一方、「家族などが介護してくれるから」と回答した人の割合は、要支援1(27.0%)より要支援2(41.3%)で高くなっている。

図表 4-6 介護保険サービスを利用していない理由（世帯状況別・要介護度別）

（単位：人・％）

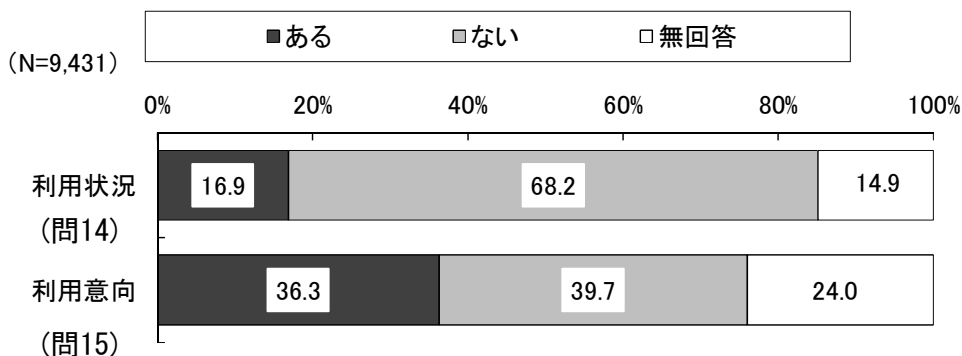
		調査数（人）	介護保険サービスがなくても自分で生活できるから	家族などが介護してくれるから	どの介護サービス事業者に依頼したらよいかわからないから	利用料を支払うことが困難だから	利用したいサービスがないから	手続きが面倒だから	介護保険以外のサービスで間に合うから	入退院を繰り返しているから	その他	無回答
全体		2,903	42.6	32.2	11.2	9.3	8.5	7.0	5.0	4.8	10.3	9.0
世帯状況別	独居世帯	956	46.0	15.7	13.0	13.6	8.3	8.6	5.6	5.0	12.0	10.0
	高齢者のみの世帯	1,117	42.3	37.0	9.7	7.6	7.9	6.4	4.7	4.7	9.5	8.1
	同居世帯	735	38.6	46.5	10.7	6.4	10.1	6.5	4.5	4.6	9.3	8.8
要介護度別	要支援1	1,842	47.6	27.0	10.9	8.1	7.4	6.6	4.5	4.1	9.8	9.4
	要支援2	1,061	33.9	41.3	11.7	11.4	10.6	7.8	5.8	5.9	11.0	8.3

(3) 介護保険以外のサービス利用状況と利用意向

問 14 現在、利用している介護保険以外のサービスはありますか。(○は1つ)

問 15 今後、利用してみたいと思う介護保険以外のサービスはありますか。(○は1つ)

図表 4-7 介護保険以外のサービス利用状況と利用意向



現在、利用している介護保険以外のサービスと今後の利用意向について聞いたところ、現在の利用が「ある」と回答した人は16.9%と2割に満たないが、今後の利用意向については「ある」と回答した人は36.3%と高くなっている。

世帯状況別にみると、現在の利用状況と今後の利用意向が「ある」と回答した人の割合は、独居世帯（利用あり：21.3%、意向あり：40.6%）で最も高くなっている。

図表 4-8 介護保険以外のサービス利用状況と利用意向
(男女別・年齢別・世帯状況別・居住区別)

(単位：人・%)

	(人調査数)	利用状況			利用意向			
		ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	
全体	9,431	16.9	68.2	14.9	36.3	39.7	24.0	
男女別	男性	2,531	14.6	71.5	13.9	33.4	44.7	21.9
	女性	6,900	17.7	67.0	15.3	37.4	37.8	24.8
年齢別	65歳未満	171	12.9	79.5	7.6	36.3	54.4	9.4
	65～69歳	451	16.9	74.1	9.1	35.0	47.9	17.1
	70～74歳	1,006	12.4	76.0	11.5	34.6	44.6	20.8
	75～79歳	1,891	15.7	69.9	14.4	39.5	38.0	22.6
	80～84歳	2,986	18.3	65.8	15.9	37.5	36.5	26.0
	85歳以上	2,926	17.9	65.3	16.7	33.8	40.2	26.0
世帯状況別	独居世帯	4,266	21.3	64.3	14.4	40.6	35.3	24.1
	高齢者のみの世帯	2,900	14.4	69.9	15.7	35.7	39.4	24.9
	同居世帯	1,968	10.7	76.9	12.3	29.1	50.7	20.2
居住区別	門司区	1,324	17.9	67.0	15.1	34.0	42.4	23.6
	小倉北区	1,622	15.7	69.2	15.1	36.9	37.4	25.7
	小倉南区	1,832	16.2	68.4	15.4	37.4	39.1	23.5
	若松区	861	18.6	67.2	14.2	36.0	40.0	24.0
	八幡東区	904	16.6	70.5	12.9	35.8	38.6	25.6
	八幡西区	2,219	16.5	67.8	15.7	37.5	39.5	23.0
	戸畑区	653	18.8	67.7	13.5	33.7	42.7	23.6

(4) 介護保険以外のサービス種類について利用状況と利用意向

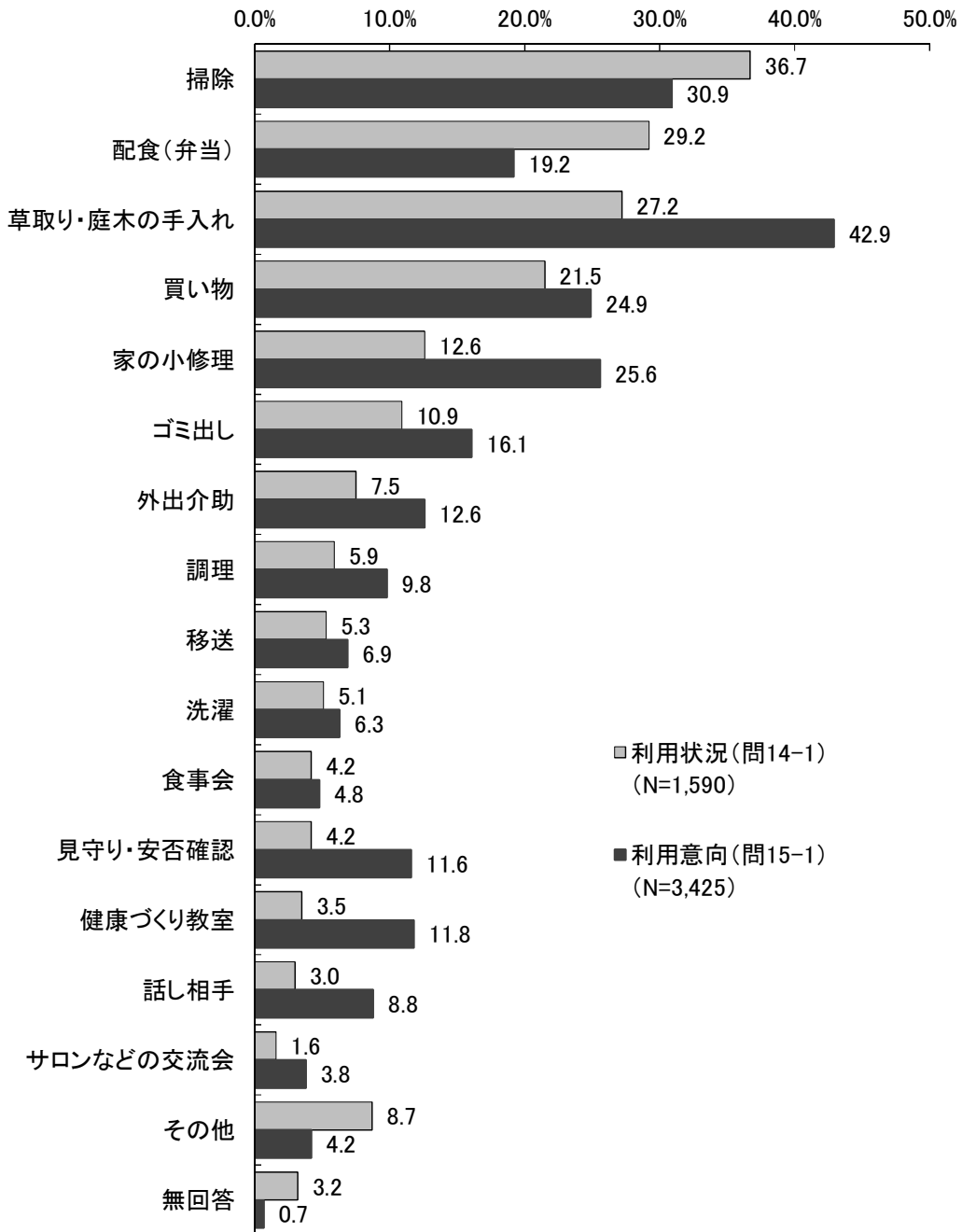
【問 14 で、「1. ある」と答えた方のみ】

問 14-1 どのような介護保険以外のサービスを利用していますか。(○はいくつでも)

【問 15 で、「ある」と答えた方のみ】

問 15-1 どのような介護保険以外のサービスを利用してみたいですか。(○はいくつでも)

図表 4-9 介護保険以外のサービス種類について利用状況と利用意向



現在、利用している介護保険以外のサービスがあると回答した人に具体的なサービスについて聞いたところ、「掃除」と回答した人が36.7%と最も高く、次いで「配食（弁当）」29.2%、「草取り・庭木の手入れ」27.2%の順となっている。

男女別でみると、「掃除」、「草取り・庭木の手入れ」、「買い物」等の割合は、男性より女性で高くなっているが、「配食（弁当）」の割合は、女性（26.9%）より男性（36.6%）で高くなっている。

今後、利用してみたい介護保険以外のサービスがあると回答した人に具体的なサービスについて聞いたところ、「草取り・庭木の手入れ」と回答した人が42.9%と最も高く、現在の利用状況（27.2%）を上回る利用意向がある。次いで「掃除」30.9%、「家の小修理」25.6%の順となっている。

男女別にみると、「配食（弁当）」、「調理」、「話し相手」と回答した人の割合は、女性より男性で高くなっている。

世帯状況別にみると、「ゴミ出し」、「見守り・安否確認」、「話し相手」と回答した人の割合は、独居世帯で高くなっている。

図表 4-10 利用している介護保険以外のサービスの種類
(男女別・世帯状況別・居住区別)

(単位：人・%)

利用状況		調査数(人)	掃除	配食(弁当)	草取り・庭木の手入れ	買い物	家の小修理	ゴミ出し	外出介助	調理	移送	洗濯	食事会	見守り・安否確認	健康づくり教室	話し相手	交流会	サロンなどの交	その他	無回答
全体		1,590	36.7	29.2	27.2	21.5	12.6	10.9	7.5	5.9	5.3	5.1	4.2	4.2	3.5	3.0	1.6	8.7	3.2	
男女別	男性	369	32.2	36.6	19.2	16.5	8.9	7.0	6.2	8.9	5.7	7.6	2.4	4.3	4.9	3.8	1.1	9.8	4.3	
	女性	1,221	38.0	26.9	29.6	23.0	13.7	12.0	7.9	5.0	5.2	4.3	4.7	4.1	3.1	2.7	1.7	8.4	2.9	
世帯状況別	独居世帯	908	37.3	30.3	28.6	22.0	14.0	12.0	6.2	5.5	4.4	4.3	5.6	5.4	2.5	3.0	1.9	7.9	2.6	
	高齢者のみの世帯	418	39.0	28.7	24.9	21.8	12.2	10.3	9.1	6.5	5.3	6.5	2.2	2.9	5.0	3.1	1.2	7.9	3.8	
	同居世帯	211	28.9	29.4	23.2	16.6	6.6	5.7	9.0	5.2	8.1	3.8	2.8	1.4	4.3	2.4	1.4	13.7	4.7	
居住区別	門司区	237	34.2	35.0	24.5	20.3	12.2	11.4	5.5	2.1	2.5	5.1	3.8	3.8	3.8	3.0	1.3	9.7	4.2	
	小倉北区	254	42.1	27.6	20.9	22.0	12.2	9.8	9.8	5.5	3.5	6.7	2.4	4.3	1.6	1.2	1.2	8.3	3.9	
	小倉南区	296	30.1	27.7	32.1	22.0	15.2	11.5	6.4	6.4	7.4	3.7	5.4	3.7	2.7	3.0	0.7	10.5	3.0	
	若松区	160	38.8	28.1	33.1	20.6	12.5	11.3	7.5	5.0	8.1	3.1	4.4	3.8	1.9	3.8	0.6	4.4	6.9	
	八幡東区	150	41.3	30.7	24.7	24.7	15.3	17.3	11.3	10.0	5.3	8.7	4.0	6.7	4.0	4.7	2.0	5.3	2.7	
	八幡西区	367	36.0	28.9	29.2	20.4	11.4	9.8	5.2	6.8	4.9	4.4	3.8	3.8	4.6	3.5	1.9	10.9	1.4	
戸畑区	123	39.8	26.0	22.8	22.0	8.1	4.9	11.4	6.5	6.5	5.7	6.5	4.1	6.5	1.6	4.9	5.7	1.6		

図表 4-11 今後利用したい介護保険以外のサービスの種類
(男女別・世帯状況別・居住区別)

(単位：人・%)

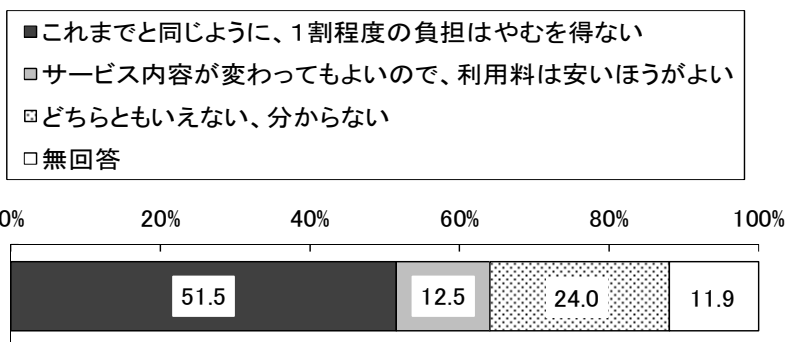
利用意向		調査数 (人)	掃除	配食 (弁当)	草取り・ 庭木の 手入れ	買い物	家の小 修理	ゴミ出 し	外出介 助	調理	移送	洗濯	食事会	認見 守り・ 安否確	健康 づくり 教室	話し 相手	流会 サロ ンな どの 交	その 他	無回 答
全体		3,425	30.9	19.2	42.9	24.9	25.6	16.1	12.6	9.8	6.9	6.3	4.8	11.6	11.8	8.8	3.8	4.2	0.7
男女 別	男性	845	26.5	23.4	42.5	25.4	24.7	14.2	11.2	15.5	4.5	8.5	3.9	11.8	13.8	12.1	4.0	3.4	0.9
	女性	2,580	32.3	17.9	43.1	24.7	25.9	16.7	13.0	7.9	7.7	5.6	5.0	11.6	11.1	7.8	3.8	4.5	0.6
世帯 状況 別	独居世帯	1,733	29.7	17.5	43.1	25.6	26.9	19.6	11.7	8.9	6.1	5.5	5.4	16.0	10.1	10.7	4.0	4.2	0.5
	高齢者のみの世帯	1,035	32.9	21.9	42.2	26.6	26.3	14.7	12.7	11.4	7.6	8.0	3.8	7.2	13.0	5.8	3.1	4.2	1.1
	同居世帯	572	29.5	20.3	43.5	19.9	21.0	8.4	15.2	9.6	7.9	5.6	4.4	6.8	14.3	8.4	4.2	4.2	0.3
居住 区別	門司区	450	36.2	16.7	47.1	19.8	27.3	17.6	10.4	8.0	6.2	6.0	3.6	14.0	9.8	8.7	4.7	4.9	0.7
	小倉北区	598	31.3	21.1	35.1	28.1	22.7	15.9	11.0	10.9	6.7	6.0	6.0	11.9	11.0	9.5	2.8	5.0	0.5
	小倉南区	686	30.9	20.7	47.5	25.2	24.3	14.9	14.6	9.5	8.2	7.3	4.4	9.9	14.1	7.9	4.1	3.6	1.2
	若松区	310	28.4	17.1	47.4	18.4	31.0	18.7	10.0	11.6	4.2	6.5	4.8	12.6	9.0	8.4	2.9	4.2	1.0
	八幡東区	324	29.0	18.8	35.8	25.3	25.6	17.3	14.2	8.3	3.7	5.9	4.6	9.9	13.0	10.5	4.3	3.4	0.6
	八幡西区	833	30.9	18.1	46.6	28.1	25.7	14.4	13.0	10.6	9.1	6.1	4.6	11.9	11.6	9.1	3.6	4.1	0.5
	戸畑区	220	25.5	22.7	31.8	22.7	25.5	18.2	14.5	7.7	5.5	6.4	5.9	10.9	13.2	7.7	5.5	4.1	-

(2) サービス利用料の1割負担に対する考え

問17 介護保険制度では、ホームヘルプなどのサービスを利用した場合、1割の自己負担を支払っていただくことになっています。

介護保険制度の見直しにより、ホームヘルプサービスなどが市町村の実施する事業に移ることとなりますが、利用するサービスの自己負担について、どのように考えますか。(○は1つ)

図表 5-3 サービス利用料の1割負担に対する考え



サービス利用料の1割負担に対する考えについて聞いたところ、「これまでと同じように、1割程度の負担はやむを得ない」と回答した人が51.5%と半数を超えており、次いで「どちらともいえない、分からない」24.0%、「サービス内容が変わってもよいので、利用料は安いほうがよい」12.5%の順となっている。

介護保険サービス利用状況別にみると、「これまでと同じように、1割程度の負担はやむを得ない」と回答した人の割合は、介護保険サービスを利用したことがある人(59.2%)で高くなっている。

図表 5-4 サービス利用料の1割負担に対する考え
(年齢別・介護保険サービス利用状況別)

(単位：人・%)

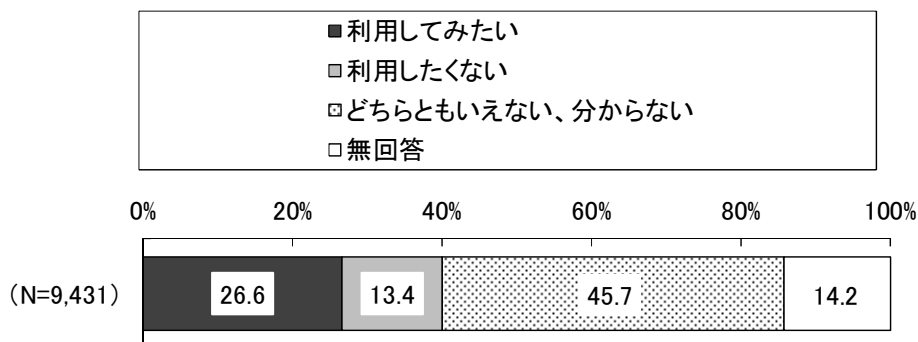
		調査数(人)	やにこむ、これを1割で得ない程度と同じ負担は	はてさもよいサービスの内容がよい利用料	分どちらともいえない、	無回答
全体		9,431	51.5	12.5	24.0	11.9
年齢別	65歳未満	171	49.7	15.8	29.2	5.3
	65～69歳	451	45.9	14.4	28.6	11.1
	70～74歳	1,006	46.4	14.4	27.6	11.5
	75～79歳	1,891	48.5	14.5	25.4	11.5
	80～84歳	2,986	52.1	12.3	23.0	12.6
	85歳以上	2,926	55.5	10.4	21.8	12.3
利用状況別	介護保険サービスを利用している	6,139	59.2	11.9	20.0	8.9
	介護保険サービスを利用していない	2,903	39.1	14.1	33.9	12.9

6. 介護予防事業について

(1) 介護予防事業の利用意向

問 18 介護予防事業を利用してみたいですか。(○は1つ)

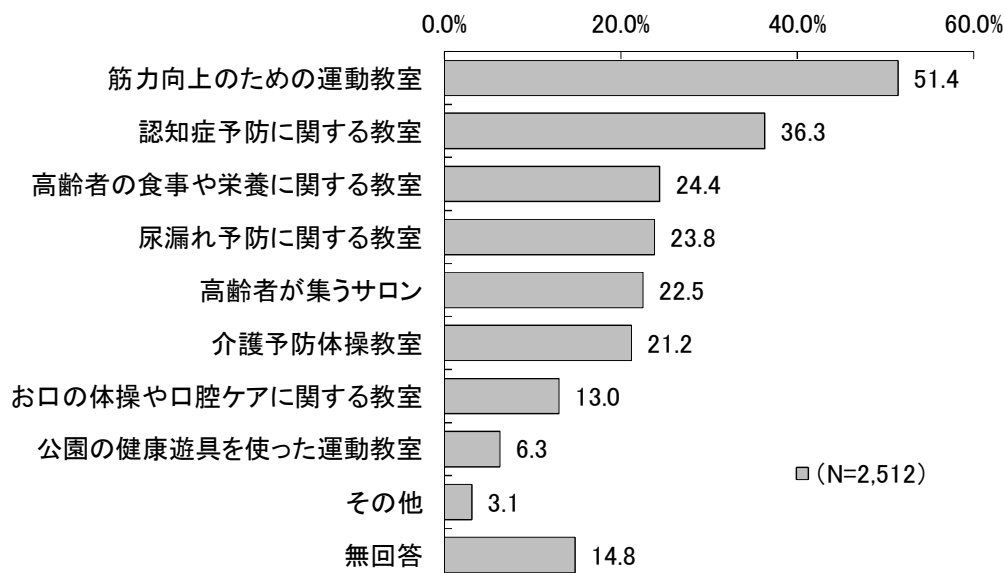
図表 6-1 介護予防事業の利用意向



【問 18 で、「利用してみたい」と答えた方のみ】

問 18-1 どのような介護予防事業を利用してみたいですか。(○はいくつでも)

図表 6-2 利用したい介護予防事業の種類



介護予防事業を利用したいかについて聞いたところ、「どちらともいえない、分からない」と回答した人が 45.7%と最も高く、次いで「利用してみたい」26.6%、「利用したくない」13.4%の順となっている。

要介護度別にみると、「利用してみたい」と回答した人の割合は、要支援 2 (23.9%) より要支援 1 (29.0%) で高くなっている。

介護予防事業を利用したいと回答した人に具体的な利用したい介護予防事業の種類を聞いたところ、「筋力向上のための運動教室」と回答した人が51.4%と最も高く、次いで「認知症予防に関する教室」36.3%、「高齢者の食事や栄養に関する教室」24.4%の順となっている。

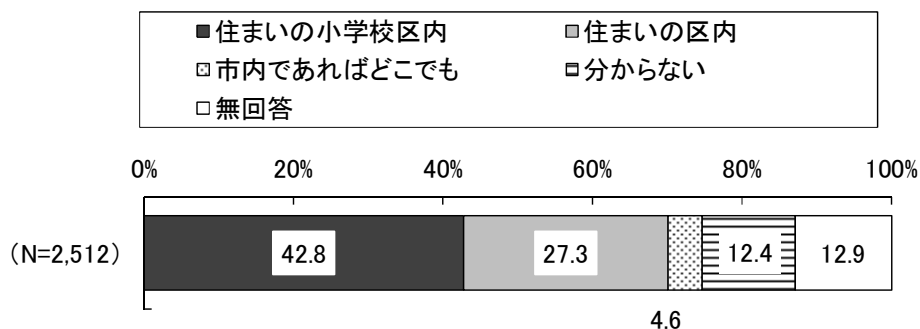
図表 6-3 介護予防事業の利用意向（男女別・年齢別・要介護度別・居住区別）

（単位：人・％）

		調査数 (人)	利用 して みたい	利用 した くない	い な ど い ち ら 分 か ら い な え	無 回 答
全 体		9,431	26.6	13.4	45.7	14.2
男 女 別	男性	2,531	26.0	12.7	48.7	12.6
	女性	6,900	26.9	13.7	44.6	14.8
年 齢 別	65歳未満	171	21.6	13.5	58.5	6.4
	65～69歳	451	29.0	14.6	47.5	8.9
	70～74歳	1,006	28.1	11.3	50.0	10.5
	75～79歳	1,891	29.2	10.5	46.5	13.7
	80～84歳	2,986	28.1	13.8	42.5	15.6
	85歳以上	2,926	22.9	15.4	46.0	15.7
要 介 護 度 別	要支援1	5,093	29.0	11.8	44.8	14.4
	要支援2	4,338	23.9	15.4	46.7	14.0
居 住 区 別	門司区	1,324	23.9	14.4	46.7	15.0
	小倉北区	1,622	26.9	13.6	43.9	15.6
	小倉南区	1,832	26.4	13.2	45.9	14.6
	若松区	861	25.1	14.8	48.2	12.0
	八幡東区	904	30.0	11.6	44.6	13.8
	八幡西区	2,219	27.8	13.2	45.5	13.5
	戸畑区	653	25.3	13.5	46.9	14.4

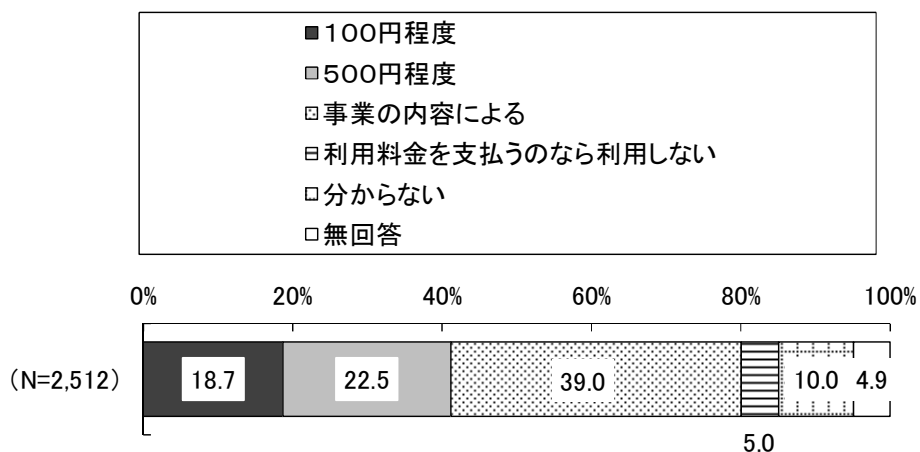
問 18-2 希望する事業があった場合、どこまでなら出かけていきますか。(〇は1つ)

図表 6-4 介護予防事業に行ける範囲



問 18-3 利用する場合、一回あたりいくらまでなら利用料金を支払ってもよいと思いますか。(〇は1つ)

図表 6-5 希望する介護予防事業の一回あたり利用料



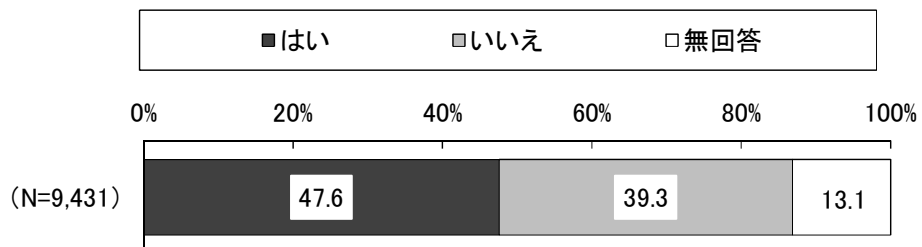
希望する介護予防事業があった場合の行くことができる範囲について聞いたところ、「住まいの小学校区内」と回答した人が 42.8%と最も高く、次いで「住まいの区内」27.3%、「わからない」12.4%の順となっている。

介護予防事業に一回あたりいくらまでなら利用料を支払ってもよいかについて聞いたところ、「事業の内容による」と回答した人が 39.0%と最も高く、次いで「500円程度」22.5%、「100円程度」18.7%の順となっている。

(2) 地域包括支援センターの認知度

問 19 「地域包括支援センター」を知っていますか。(○は1つ)

図表 6-6 地域包括支援センターの認知度



「地域包括支援センター」を知っているかについて聞いたところ、「はい」が47.6%、「いいえ」が39.3%となっており、認知度（「はい」の割合）は約半数となっている。

年齢別にみると、認知度は加齢とともに低くなる傾向にある。

図表 6-7 地域包括支援センターの認知度（男女別・年齢別・居住地別）

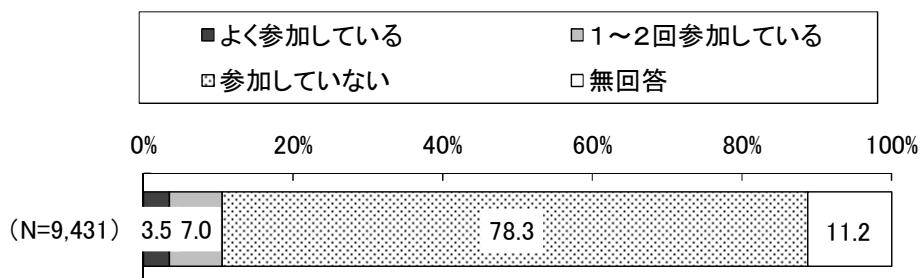
(単位：人・%)

		(人調査数)	はい	いいえ	無回答
全	体	9,431	47.6	39.3	13.1
男女別	男性	2,531	46.9	40.5	12.6
	女性	6,900	47.9	38.9	13.2
年齢別	65歳未満	171	57.9	37.4	4.7
	65～69歳	451	54.3	37.7	8.0
	70～74歳	1,006	52.0	37.7	10.3
	75～79歳	1,891	49.7	37.7	12.7
	80～84歳	2,986	46.6	39.4	14.0
	85歳以上	2,926	44.2	41.3	14.5
居住区別	門司区	1,324	47.5	39.4	13.1
	小倉北区	1,622	43.6	43.0	13.4
	小倉南区	1,832	49.3	37.1	13.5
	若松区	861	45.9	41.9	12.2
	八幡東区	904	48.8	37.9	13.3
	八幡西区	2,219	48.9	39.2	11.9
	戸畑区	653	49.5	35.2	15.3

(3) 市民センターの行事や活動への参加状況

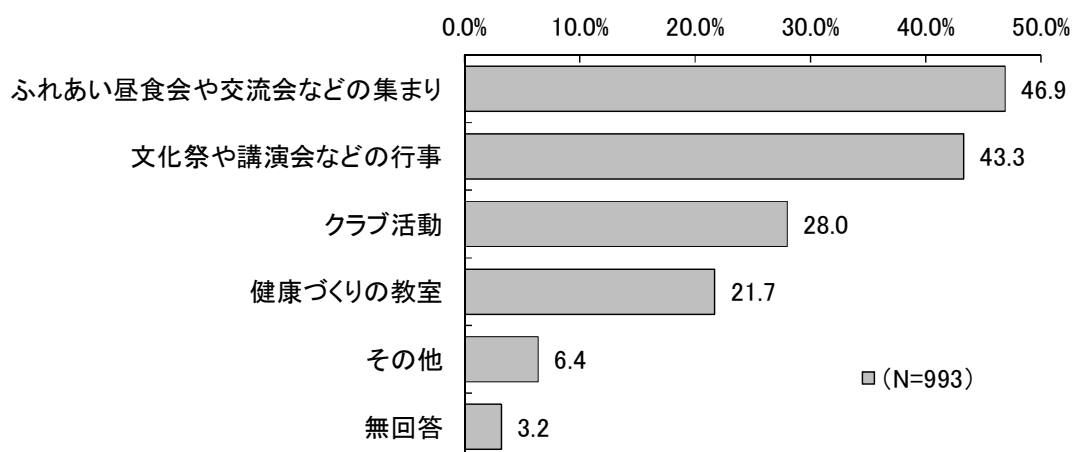
問20 この3ヶ月間に、市民センターで行われている行事や活動に参加したことがありますか。
(○は1つ)

図表 6-8 市民センターの行事や活動への参加状況



【問20で、「1. よく参加している」、「2. 1~2回参加している」と答えた方のみ】
問20-1 どのような行事や活動に参加したことがありますか。(○はいくつでも)

図表 6-9 参加した行事や活動の種類



この3ヶ月間の市民センターの行事や活動への参加状況について聞いたところ、「参加していない」と回答した人が78.3%と約8割を占め、「よく参加している」、「1~2回参加している」と回答した人を合わせた『参加している』人の割合は約1割程度にとどまっている。

男女別にみると、「参加していない」の割合は、女性(77.2%)より男性(81.3%)で高くなっている。

年齢別にみると、「参加していない」と回答した人の割合は、年齢が下がるほど高くなる傾向にある。

世帯状況別にみると、「参加していない」の割合は、同居家族(83.0%)で最も高くなっている。

この3ヶ月間の市民センターの行事や活動へ参加していると回答した人に具体的な行事や活動の種類について聞いたところ、「ふれあい昼食会や交流会などの集まり」と回答した人が46.9%と最も高く、次いで「文化祭や講演会などの行事」43.3%、「クラブ活動」28.0%の順となっている。

世帯状況別にみると、「ふれあい昼食会や交流会などの集まり」と回答した人の割合は、独居世帯（53.2%）で最も高くなっている。

図表 6-10 市民センターの行事や活動への参加状況、参加した行事や活動の種類
(男女別・年齢別・世帯状況別・居住区別)

(単位：人・%)

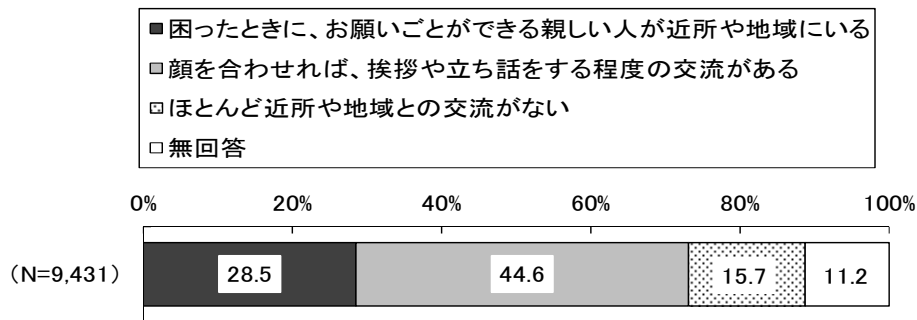
	調査数(人)	市民センターの行事や活動への参加状況				調査数(人)	参加した行事や活動の種類						
		よく参加している	1、2回参加している	参加していない	無回答		ふれあい昼食会や交流会などの集まり	文化祭や講演会などの行事	クラブ活動	健康づくりの教室	その他	無回答	
全体	9,431	3.5	7.0	78.3	11.2	993	46.9	43.3	28.0	21.7	6.4	3.2	
男女別	男性	2,531	2.6	4.9	81.3	11.2	190	41.6	44.7	28.9	18.9	7.9	3.2
	女性	6,900	3.8	7.8	77.2	11.2	803	48.2	43.0	27.8	22.3	6.1	3.2
年齢別	65歳未満	171	2.3	1.2	93.0	3.5	6	-	66.7	50.0	16.7	-	-
	65～69歳	451	1.6	4.9	86.0	7.5	29	17.2	34.5	41.4	20.7	13.8	3.4
	70～74歳	1,006	4.1	6.1	81.6	8.3	102	31.4	49.0	32.4	32.4	7.8	2.9
	75～79歳	1,891	4.0	7.1	78.1	10.8	210	41.9	44.3	34.3	23.3	6.2	3.8
	80～84歳	2,986	3.9	7.8	76.5	11.9	349	51.9	42.7	24.4	22.3	5.2	2.0
85歳以上	2,926	2.9	7.2	77.0	12.8	297	53.9	41.8	24.6	16.2	7.1	4.4	
世帯状況別	独居世帯	4,266	4.1	8.6	76.0	11.2	543	53.2	42.2	23.2	20.1	7.6	3.1
	高齢者のみの世帯	2,900	3.1	6.1	79.3	11.6	265	37.4	44.9	34.0	24.9	5.7	3.8
	同居世帯	1,968	3.2	4.9	83.0	8.9	159	40.3	47.8	34.6	23.3	3.8	1.9
居住区別	門司区	1,324	2.8	6.0	79.2	12.1	116	44.8	48.3	25.9	21.6	5.2	3.4
	小倉北区	1,622	2.8	6.5	79.5	11.2	150	48.0	42.7	21.3	28.0	9.3	2.7
	小倉南区	1,832	2.6	6.1	80.0	11.4	159	52.2	35.2	27.0	19.5	5.0	3.8
	若松区	861	3.0	6.7	79.8	10.5	84	48.8	56.0	19.0	25.0	4.8	6.0
	八幡東区	904	4.5	9.8	74.7	11.0	130	36.2	49.2	33.1	20.0	5.4	2.3
	八幡西区	2,219	4.0	6.8	78.5	10.7	239	46.0	39.7	34.3	19.7	7.9	2.5
	戸畑区	653	6.7	10.9	70.6	11.8	115	53.0	41.7	27.8	20.0	5.2	3.5

7. 近所や地域との交流について

(1) 近所や地域との交流の程度

問 21 あなたはどの程度、近所や地域との交流をしていますか。(〇は1つ)

図表 7-1 近所や地域との交流の程度



どの程度、近所や地域と交流しているかについて聞いたところ、「顔を合わせれば、挨拶や立ち話をする程度の交流がある」と回答した人が44.6%と最も高く、次いで「困ったときに、お願いごとができる親しい人が近所や地域にいる」28.5%、「ほとんど近所や地域との交流がない」15.7%の順となっている。

男女別にみると、「困ったときに、お願いごとができる親しい人が近所や地域にいる」と回答した人の割合は、男性(18.5%)より女性(32.2%)で高くなっている。また、「顔を合わせれば、挨拶や立ち話をする程度の交流がある」、「ほとんど近所や地域との交流がない」の割合は、女性より男性で高くなっている。

図表 7-2 近所や地域との交流の程度（男女別・年齢別・世帯状況別・居住区別）

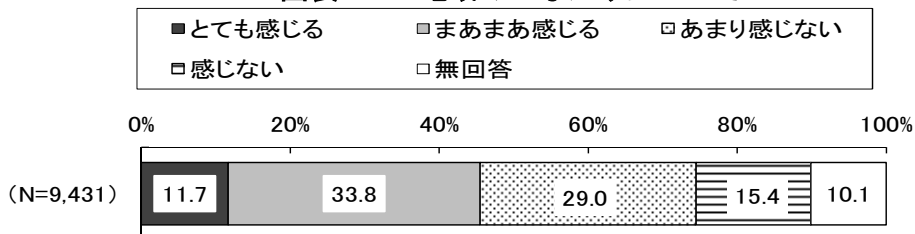
（単位：人・％）

		調査数（人）	がご困 近とつ 所がた やでき 地域る に親、 いしお るい願 人い	交や顔 流立を があち る話を すれ ば、 程、 度、 挨拶	のほ とと 交流 がど ない 近 所 や 地 域 と	無 回 答
全 体		9,431	28.5	44.6	15.7	11.2
男 女 別	男性	2,531	18.5	47.2	22.2	12.1
	女性	6,900	32.2	43.6	13.3	10.9
年 齢 別	65歳未満	171	24.0	37.4	32.7	5.8
	65～69歳	451	22.4	47.0	22.8	7.8
	70～74歳	1,006	26.4	46.7	16.3	10.5
	75～79歳	1,891	28.8	45.8	14.4	10.9
	80～84歳	2,986	30.5	45.4	13.1	11.0
	85歳以上	2,926	28.3	42.2	16.8	12.7
世 帯 状 況 別	独居世帯	4,266	34.5	39.9	14.7	10.8
	高齢者のみの世帯	2,900	25.5	48.2	14.1	12.2
	同居世帯	1,968	20.9	50.1	19.8	9.2
居 住 区 別	門司区	1,324	30.7	43.6	14.7	11.0
	小倉北区	1,622	26.1	45.3	17.3	11.3
	小倉南区	1,832	27.9	44.7	16.6	10.8
	若松区	861	28.3	45.4	14.5	11.7
	八幡東区	904	29.9	46.8	12.5	10.8
	八幡西区	2,219	29.2	43.7	16.4	10.7
	戸畑区	653	28.0	43.3	14.7	13.9

(2) 地域のつながりについて

問 22 あなたがお住まいの地域には、地域のつながり（住民同士の助け合い・支えあいなど）があると感じますか。（○は1つ）

図表 7-3 地域のつながりについて



地域とのつながりがあると感じるかについて聞いたところ、「まあまあ感じる」と回答した人が33.8%と最も高く、次いで「あまり感じない」29.0%、「感じない」15.4%の順となっている。また、「とても感じる」、「まあまあ感じる」と回答した人を合わせた『感じる』の割合は45.5%、「あまり感じない」、「感じない」と回答した人を合わせた『感じない』の割合は44.4%と、ほぼ拮抗している。

男女別にみると、「あまり感じない」、「感じない」の割合は、女性より男性で高くなっている。

図表 7-4 地域のつながりについて（男女別・年齢別・世帯状況別・居住区別）

(単位：人・%)

		調査数 (人)	とても感じる	まあまあ感じる	あまり感じない	感じない	無回答
全 体		9,431	11.7	33.8	29.0	15.4	10.1
男女別	男性	2,531	8.1	32.0	31.6	17.8	10.5
	女性	6,900	13.0	34.4	28.1	14.4	10.0
年齢別	65歳未満	171	7.0	30.4	33.3	24.6	4.7
	65～69歳	451	6.2	28.8	32.4	24.4	8.2
	70～74歳	1,006	9.4	30.7	34.3	16.8	8.7
	75～79歳	1,891	11.4	33.2	29.6	16.0	9.8
	80～84歳	2,986	12.5	34.9	28.6	14.1	9.9
	85歳以上	2,926	12.9	35.0	26.6	13.8	11.7
世帯状況別	独居世帯	4,266	14.0	33.5	27.3	15.4	9.7
	高齢者のみの世帯	2,900	10.6	33.6	30.1	15.1	10.6
	同居世帯	1,968	8.3	35.1	31.9	15.8	9.0
居住区別	門司区	1,324	12.9	31.9	30.4	14.9	9.9
	小倉北区	1,622	9.1	31.8	29.6	19.3	10.2
	小倉南区	1,832	11.4	35.4	28.1	14.8	10.3
	若松区	861	10.2	32.3	32.5	14.4	10.6
	八幡東区	904	13.9	35.5	28.2	12.9	9.4
	八幡西区	2,219	12.9	34.1	28.3	15.2	9.6
	戸畑区	653	11.2	36.4	27.3	12.9	12.3